

平成23年度  
文化芸術創造都市推進事業

報告書

平成24年3月

NPO法人 都市文化創造機構

## もくじ

第1章 情報収集・分析・提供.....	1
1. 文化芸術創造都市ブロック別会議.....	1
(1) 取組の概要.....	1
(2) 内容の特徴.....	2
(3) ブロック別の討議概要.....	4
(4) 取組の評価.....	5
2. 海外の取組・ネットワークの状況等.....	5
3. 国施策の活用状況.....	7
第2章 会議・研修の実施.....	8
1. 創造都市政策セミナー.....	8
(1) 取組の概要.....	8
(2) 内容と評価.....	9
2. 第1回創造農村ワークショップ（参考情報）.....	9
(1) 取組の概要.....	9
(2) 内容と評価.....	10
第3章 ネットワークの構築.....	11
1. 創造都市ネットワーク会議.....	11
(1) 取組の概要.....	11
(2) 内容と評価.....	11
2. その他.....	12
【添付資料】	
1. 創造都市政策セミナー要約・アンケート結果.....	14
2. 創造都市ネットワーク会議要約・アンケート結果.....	29
3. 行事の広報チラシ等.....	56

## 第1章 情報収集・分析・提供

### 1. 文化芸術創造都市ブロック別会議

#### (1) 取組の概要

##### ① 目的

- 自治体担当者を中心とする比較的小人数の交流機会を確保し、全国会議と比して緻密な情報・意見交換を可能とする。これにより、現場の取組状況を共有するとともに、担当者の力量向上に資する。
- 比較的近距离、同一地域という限定を付すことによって、近隣自治体等関係者の参加機会を確保する。これにより、関心をもつ自治体等の取組を促すとともに、今後の地域ネットワークづくりにつなげる。
- 創造都市ネットワーク会議（平成23年2月4日予定）の前段会議の性格を持たせることによって、本会議の論点を整理・集約するとともに、本会議開催に向けた気運を高める。

##### ② 会議の構成

- 基礎自治体の文化芸術創造都市事業若しくはそれに準じる事業の担当者
- 文化庁
- 学者・研究者(助言者)
- NPO法人都市文化創造機構(事務局)

##### ③ ブロック別実施日時・開催市

近畿ブロック	7月13日(水)	午後2時～4時半、神戸市
九州・沖縄ブロック	8月18日(木)	午後1時半～4時、熊本市
中国・四国・(近畿)ブロック	9月30日(金)	午後2時～4時半、岡山市
東北ブロック	10月15日(土)	午後1時～3時、仙北市
中部ブロック	10月24日(月)	午後2時～4時半、名古屋市
関東ブロック	10月28日(金)	午後2時～4時半、横浜市
北海道ブロック	11月23日(水・祝)	午前10時～12時半、札幌市

##### ④ 自治体に対する案内

文化庁より都道府県、政令市、中核市の文化主管課に案内。基礎自治体には都道府県を通じて案内した他、平成19年度以降の文化庁長官表彰自治体（創造都市部門）、平成22年度アンケート協力自治体、平成22、23年度の文化芸術創造都市モデル事業自治体等に個別案内した。

⑤ 参加の状況

ブロック毎の参加は下表の通りである。

		北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
参加のあった自治体名（民間団体のみ含む）	政令市	札幌		さいたま、相模原、横浜	名古屋、浜松、新潟	京都、大阪、神戸	岡山	北九州、福岡、熊本※
	中核市・特例市		盛岡、八戸	高崎	岡崎、金沢	奈良、姫路、豊中	松山	
	10万人以上市		鶴岡	豊島区、取手、西東京、日立、八王子	稲沢、可児、高岡、	箕面	米子	春日、別府、八代
	5～10万人未満市				南砺、十日町	栗東		天草、古賀、宗像、山鹿
	5万人未満市	滝川、富良野	遠野、仙北		美濃	篠山、		阿蘇、人吉
	町	東川		中之条	木曾、		大山、南部、湯梨浜	
	村	—	—	—	—	—	—	—
	都道府県		岩手					熊本
行政	団体	3	5	10	12	9	5	11
	人数	5	6	14	22	15	6	23
民間	団体	1	1	2	1	—	2	3
	人数	1	1	2	1	—	2	6
参加都市数※2		4	5	10	12	9	6	12
参加者数		6	7	16	23	15	8	29
都市数合計		58（政令市＝14、中核市・特例市＝9、10万以上市＝14、5～10万未満市＝7、5万未満市＝8、町＝6）						

（注）実際には、Aブロックの都市がBブロック会議に参加した例もある。そこでここでは、会議別集計ではなく、所属別集計とした。たとえば、所属ブロック会議と他ブロック会議の2つに参加した場合は所属ブロック会議のみを数え、他ブロック会議だけに参加した場合は、所属ブロックに組み入れて数えている。

※熊本市はブロック別会議の時点では中核市であったが、その後政令市に指定された。

※2 都道府県を除いている。

（2）内容の特徴

① 地域別の参加傾向

関東、中部、近畿ブロックにおいて参加数が多い。この傾向は、これらの地域に人口規模・財政規模の大きな自治体が多いこと、相対的に地域経済力の強い都市が多いことの反映と見ることができる。九州も多いが、これはNPO等から自治体へ働きかけのあった

ことが大きい。

## ② 参加自治体の規模

行政もしくは民間団体が参加した都市は 58 を数える。その内 24.1%が政令市である。

20 ある政令市（熊本を含む）の内、今回のブロック会議に参加したのは 14 市で、仙台（今回は震災等の影響もあり不参加であったが、過去の創造都市会議には参加）を加えると、政令市の 75%である。このことは、文化芸術創造都市の取組をリードしている 1 つの極が政令市であることを示している。

他方で、10 万人未満の都市が参加都市の 36.2%を占めるように、大規模都市だけでなく、中・小規模都市にも取組の波は広がっている。そのことは、仙北市で開かれた創造農村ワークショップ（10/15）に、全国 10 都市（農村）から報告のエントリーがあったことにも現れている。

## ③ 担当者の部署

会議に参加した自治体担当者の所属部署は、a.企画系、b.文化振興系、c.都市計画系、d.まちづくり・市民協働系、e.産業振興系、f.その他に分類できる。最も多かったのは文化振興系（53.1%）、次いで企画系（26.6%）、まちづくり・市民協働系（10.9%）の順であり、合計すると 90.6%を占めた。他は、産業振興系（4.7%）、都市計画系（3.1%）、その他（1.6%）であった。

ブロック別会議の参加案内は、平成 21 年度以降に文化芸術創造都市の会議に参加したことのある自治体、モデル事業に採択された都市、文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）を受けた都市の他、都道府県の文化担当課を介して行われた。この関係が、文化振興系の多さにつながっていると思われる。

しかしにもかかわらず企画系が 4 分の 1 強を占めたということは、文化芸術創造都市の推進に企画部門が大きな役割を果たしていることを示すものといえる。

## ④ 文化芸術創造都市への視点

### ● 文化芸術それ自体の振興

ブロック別会議での討論を全体として見ると、文化芸術それ自体の振興という視点から創造都市への関心を持つ例が最多であった。例えば「文化振興条例を策定したので、どのように事業を進めればいいのか知見を共有したい」といった動機である。参加者の所属部署が文化振興系である場合は、特に顕著である。

### ● 都市戦略との関連での文化振興

次に多かったのは、都市戦略との関係で文化振興を重視する視点である。たとえば、観光産業を振興する・メディア産業を振興する・市民協働のまちづくりを進める・都市再開発を行う等々のために文化芸術を活用するといったことである。

この場合、政令市や中核市になったこと等を契機に都市格やアメニティを高める方策として採用されるケース、衰退する地域経済や住民活力の起死回生策として文化芸術の活用を図るケース、と大きく2類型がみられた。

いずれにしても、企画系部署が担い手になっているのが特徴である。

#### ⑤ ネットワークに対する関心

ブロック別会議に参加した都市においては、文化芸術創造都市ネットワークに対する関心は総じて高かった。特に有益な情報を交流できるプラットフォームとして捉えた時に高い。しかし、自身が費用や労力を分担して継続的に維持する対象として捉えた時は「それに見合うメリットが見えなければ」と、むしろ消極的な反応も目立った。

現時点において、自治体担当者の中での「創造都市」の概念や取組に対する理解は必ずしも十分ではない。その点をサポートするネットワークの必要性は、大方の支持を得た状況である。問題は、誰が汗をかくのか（ネットワークの持続的運営に必要な事務をどこが担うのか）、ネットワークと自治体の関係はどのようなもので、参画するメリットがどのようなものか、といった具体像であり、それがなければ、次の議論に進みにくいという声が大勢を占めた。

### (3) ブロック別の討議概要

#### ① 近畿ブロック

ユネスコ創造都市ネットワークに登録された「デザイン都市」の神戸市、「生活創造都市」を掲げる京都市、市民レベルの取組が徐々に広がる大阪市などを中心にしながら、2府3県の8市・14人が参加した。創造都市の取組が文化セクションに一任されているところでは、なかなか全庁の議論をリードできないなどの課題が出された。

#### ② 九州・沖縄ブロック

3県から1県・10市・3団体の27人が参加した。人数が多く、創造都市を議題にした会議には初めて参加するところが多かったため、各市からの取組の報告が中心になった。しかし、NPO等から問題提起され、市民参加のあり方について突っ込んだ議論が行われた。またソフト事業の評価指標が確立していないことが課題として出された。

#### ③ 中国・四国・(近畿)ブロック

3県から1県4市3町の9人が参加した。山陰地方は『ゲゲゲの鬼太郎』や『名探偵コナン』などの作品があり、また大山の近辺には多くのクリエイターが在住しているなど文化資源は豊富である。しかし個別自治体は小規模なところが多いので、行政区域を越えて山陰観光文化圏として連携・一体化することが課題として出された。

#### ④ 東北ブロック

創造農村ワークショップと連動した会議になったので、北海道や大分県もふくむ1道5県から8市町の16人が参加した。3.11後に文化芸術がどのように復興に寄与したかが大き

なテーマになったが、伝統芸能であれ、現代アートであれ、文化芸術がコミュニティの活力を高めるのに非常に有効であったという事例が多く自治体から報告された。

#### ⑤中部ブロック

名古屋市、浜松市、金沢市といった大規模自治体から木曾町のような小規模自治体まで、6県の10市1町、21人が参加した。小規模なところでは財源の悩みが出された。また「文化政策」という枠組みを超えた総合的なまちづくりとして、持続させることが大事であることが話し合われた。

#### ⑥関東ブロック

1都5県から10市町の19人が参加した。首都圏にふさわしく文化振興条例の制定も増えている。しかしその後の展開に悩んでいる所も多い。芸術文化の分野では行政とアーティストが連携している例も多いのに、それが創造都市という総合性に発展する上で課題を残している。

#### ⑦北海道ブロック

3市1町から6人が参加した。焦点になったのは「市民参加」である。東川町は10年に及ぶ積み重ねの中で市民参加が可能になり、富良野市は市民の取組から出発して、それを行政がサポートするという形で市民参加になった。札幌市はこれからの取組だが、それぞれの地域特性に合ったアプローチになることが議論された。

### (4) 取組の評価

従来、創造都市に関する集まりは全国規模がほとんどである。そのため関心があっても明確な方針をもっていない自治体や、交通費の嵩む遠方からは参加しにくい面があった。しかし今回は相対的に狭いエリアを対象にしたことにより、創造都市に関する会議に初めて参加したという都市は24（全体の41.4%）にのぼった。これは創造都市の取組を広げる上で、大きな成果となった。

討論においては、基礎自治体における取組の積極面や困難点が率直に交流され、状況把握や今後につながるヒントを得る点で成果が大きかった。また担当者同士の横の接点が多かったことで、今後の自主的な交流の条件づくりにもなった。総じて、所期の目標を超える成果があったと評価できる。

## 2. 海外の取組・ネットワークの状況等

今後、ユネスコ創造都市ネットワーク事業に変化が予想されることもあり、今年度は11月にソウルで行われた会議を報告する。

ユネスコは「文化多様性宣言」（2001年）に基づき、2004年に創造都市のグローバルなネットワーク化を開始した。文学、音楽、映画、デザイン、クラフト&フォークアート、ガストロノミー、メディアアートの7分野で、ボローニャやモントリオール、ベルリン、神戸市、金沢市、名古屋市など30都市が加盟するに至っている（2012年3月現在）。ユネ

スコ創造都市ネットワーク会議は、2009年には米国サンタフェで、2010年には中国シンセンで加盟都市の政策担当者の参加によって開催されてきたが、今回のソウル会議では初めて市長会合（サミット）が併設された。

開催市の朴元淳・新市長は、開会あいさつにおいて、ソウル市の従来の創造都市政策（デザイン都市・ソウル）がトップダウンで市民との対話を欠いてきたと述べたうえで、草の根のコミュニティムーブメントに基づいた創造都市づくりに転換すると宣言し、「デザイン都市ソウル」の目標にソーシャルデザインと環境との共生を掲げた。また、ユネスコの文化局長に新たに就任した Francesco Bandarin 氏が基調報告の中で、前職の国際記念物遺跡会議 ICOMOS が進める歴史都市や歴史的都市景観の保存と手を携えて創造都市を推進することが、今後重要であると述べた。

会議で採択されたソウル宣言「持続的発展に向けた創造都市」は以下の通りである。

#### 1. 持続的都市発展に向けた創造性の涵養

ブルントランド報告（1989年）に示されたように持続的発展とは将来世代の可能性を損なうことなく現在のニーズを適えるような発展であると従来から理解されてきた。創造的人的資源こそ都市の社会的経済的成長の推進者であり、均衡のとれた都市発展に重要であるとの認識のもとで、創造産業の発展を通じて創造性と革新性のための最適な環境と条件を作り出すことに努める。

#### 2. 創造的なガバナンスの強化

創造性と創造産業は都市再生と持続的発展の推進力であるとの認識を共有し、都市を卓越した創造的なハブとして涵養する政策と戦略を発展させるために最大限の努力を行う。

#### 3. 都市内外の協力関係を強化する

ユネスコ創造都市ネットワークのメンバーとして、メンバー間の協力を強化し、持続的発展と文化的多様性、そして知的な対話に関してネットワークの共通の目標を促進する多様な活動への積極的参画を促進する。

この宣言を採択した後、最終日の政策担当者会議の最後に、ユネスコ側は重大な発表を行った。すなわち、パレスチナのユネスコ加盟が総会（10月31日）で承認されるという事態に対して、最大の財政負担者（経費総額の3割程度）である米国がユネスコへの負担金支払いをストップしたため、ユネスコは急激な財政危機に陥り、各種の事業が中止に追い込まれ、創造都市ネットワーク事業も事務局機能を一部休止せざるを得ないということである。メンバー都市の担当者たちは深夜まで激論を交わしたが、結論に至らず、次回2012年5月のモンテリオール会議に今後の推進スキーム案を持ち寄ることとなった。

各国レベルの創造都市ネットワークとしては、約10年の実績のあるカナダの事例が注目されるので、今年度の創造都市ネットワーク会議でその調査報告が行われた。（本報告書の35-37ページを参照）



### 3. 国施策の活用状況

創造都市をめざす自治体が国の施策をどのように活用しているのかについて、文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）を受けたところを主な対象として、ブロック別会議の取組を通じて得た情報を整理した。

文化庁長官表彰を受けた自治体では、自らの都市戦略に合わせて、文化芸術創造都市推進事業や文化振興支援事業以外に、多様な国施策を活用している。たとえば、平成 20 年度表彰の萩市では、評価の核になった「萩まちじゅう博物館」事業を平成 14 年度に国土交通省の「まちづくり総合支援事業」を活用してスタートさせている。別府市では平成 19 年度から 22 年度までの「ONSEN ツーリズム推進プロジェクト」に、総務省の「頑張る地方応援プログラム（平成 21 年度終了）」を活用した。神戸市では、「デザイン都市・神戸」の推進拠点施設 KIITO の運営に、厚生労働省の緊急雇用創出事業（重点分野雇用創造事業）を活用している（平成 23 年度）。

金沢市では「歴史まちづくり法（愛称）」に基づいて文部科学省（文化庁）、国土交通省、農林水産省が共管する支援事業を平成 20 年度からの「歴史的風致維持向上計画」事業に活用し、また伝統工芸産業やファッション産業の振興に経済産業省の支援事業を活用するなどしている。他にもそれぞれの仕方で活用しているが、文化庁以外を大括りすると、総務省、国土交通省・農林水産省、経済産業省の施策に集約されてくる。これはブロック別会議に参加した担当者の部署が、文化振興系と企画系を除けば、まちづくり・市民協働系、都市計画系、産業振興系に三分されることと同じ傾向である。

さて、創造都市に関して文化庁が行っている施策は「文化庁長官表彰（文化芸術創造都市部門）」と「文化芸術創造都市推進事業」である。後者の「推進事業」は調査研究活動、推進基盤づくり、先進事例づくりで構成され、さらに推進基盤づくりはネットワーク構築と担い手育成が柱になっている。そのことを踏まえて自治体が活用している国施策の関係を整理すると、創造都市の取組の体系化を支援しているのが文化庁の施策であり、体系を構成する個別の事業を支援しているのが総務省や国土交通省、農林水産省、厚生労働省等の施策という関係になっていると言える。

## 第2章 会議・研修の実施

### 1. 創造都市政策セミナー

#### (1) 取組の概要

##### ① 目的

- 文化振興および文化芸術を活かした産業振興や教育・福祉施策等について、国内外の創造都市の取組事例から学ぶ。
- アジアにおける創造都市ネットワークに向けた討論を行い、創造都市ネットワーク日本（仮称）の結成に向けての機運を盛り上げていく。
- H23年度文化芸術創造都市モデル事業都市の成果を広く還元する。

##### ② 実施概要

- 日時：2011年11月20日（日）9：30～12：15
- 会場：アクトシティ浜松コンgresセンター／41会議室
- 主催：文化庁、NPO法人都市文化創造機構
- 協賛：静岡国際オペラコンクール実行委員会
- 後援：浜松市、財団法人浜松市文化振興財団
- 協力：大阪市立大学都市研究プラザ、日本アートマネジメント学会、一般社団法人浜松創造都市協議会
- テーマ：「アジアの創造都市ネットワークと日本」
- プログラム
  - 09：30～09：40 あいさつ 近藤誠一（文化庁長官）
  - 09：45～09：55 冒頭発言「アジア創造都市ネットワークの可能性」  
佐々木雅幸（NPO法人都市文化創造機構理事長・大阪市立大学教授）
  - 10：00～12：00 パネルディスカッション  
ソウル市：金 海 補（ソウル文化財団政策研究室長）  
上海市：花 健（上海社会科学院教授・文化産業研究センター長）  
鶴岡市：榎本 政規（鶴岡市長）  
文化庁：近藤誠一（文化庁長官）  
コーディネーター：佐々木雅幸
  - 12：00～12：15 まとめ 佐々木雅幸
- ※エクスカージョン
- 13：30～15：30 静岡国際オペラコンクール視察など

##### ③ 参加状況

19自治体はじめ、文化団体、大学・研究機関等から104人が参加。

## (2) 内容と評価

前日（11月19日）に開催された浜松市主催の「世界創造都市フォーラム」と相互連携する取組として企画した。前日がヨーロッパ（ボローニャ、グラスゴー）を事例とし、当セミナーはアジア（上海、ソウル）と国内（モデル事業都市）を事例にすることにより、世界の創造都市の取組状況について学ぶとともに、アジアの創造都市ネットワークについてイメージを持つことができた。

参加者アンケートは「非常に良かった」が42.9%で、「良かった」が53.6%である。「各都市の報告を受け、創造都市実現に様々なアプローチがあることを再認識」「とくに上海・ソウルの取り組みに感銘を受けた」といった意見に代表されるように、アジアの躍動する都市について情報を得たことが評価されていた。ネットワークについては「ぜひ参加したい」が25.0%、「参加について検討する」が46.4%であった。

（セミナーでの発言要旨等は添付資料を参照されたい）

## 2. 第1回創造農村ワークショップ（参考情報）

### (1) 取組の概要

#### ① 目的

- 創造農村（暮らしに根ざした文化や伝統産業、自然景観などを活かしたまちづくりに取り組む小規模自治体）が独自に交流できる機会を設ける。
- 大きな都市も農村の取組から学べる機会とする。

#### ② 実施概要

- 日時：平成23年10月15日（土）15:00～17:30
- 会場：たざわこ芸術村 ホテル1F「紫苑」（秋田県仙北市）
- 主催：仙北市、NPO法人都市文化創造機構、  
文化芸術創造都市モデル事業仙北実行委員会
- 共催：秋田県、秋田県教育委員会、大阪市立大学都市研究プラザ
- 参加費：1,000円
- プログラム
  - 15:00～15:10 主催者あいさつ 門脇光浩（仙北市長）  
趣旨説明 佐々木雅幸（大阪市立大学教授）
  - 15:10～15:40 招待講演「創造農村に期待すること」近藤誠一（文化庁長官）
  - 15:40～16:40 取組報告  
東川町（北海道）、八戸ポータルミュージアム（青森県）、遠野文化研究センター（岩手県）、盛岡市（岩手県）、仙北市（秋田県）、鶴岡

市（山形県）、NPO 法人越後妻有里山協働機構（新潟県）、木曾町（長野県）、篠山市（兵庫県）、NPO 法人 BEPPU PROJECT（大分県）

16：40～16：50 休憩

16：50～17：25 ディスカッション／コーディネーター：佐々木雅幸

17：25 まとめ

17：30 終了

## （2）内容と評価

本企画が立ち上がった経緯は、「創造都市政策セミナー」や「創造都市ネットワーク会議」に参加した小規模自治体の首長らから「相互に経験を交流し、情報を共有できるプラットフォームが必要だ」という声が上がったことと、3.11 東日本大震災によって“豊かさ”を問い直すことが必要ではないかという共通の問題意識をもつに至ったからである。当日はあいにくの悪天候にも関わらず 13 自治体の職員等、約 100 人が参加した。

近藤誠一文化庁長官の講演では、3.11 のことにふれつつ、自然への畏敬の念の回復とともに、人間の尊厳や規律、倫理の回復も必要であり、日本の伝統文化や思想にはそのための解決の鍵があるとして、能の『屋島』『敦盛』や、浄土を表現したとされる毛越寺庭園などが例示された。さらに、復興の鍵の一つとなるのは中小都市および農村レベルでの文化芸術による活性化であり、これからは人々が自然と一体となって固有性もちつつ連帯していくために中小都市・農村の時代となるべきだろうと述べられた。

各地の 10 人からは、地域固有の資源や文化を活かした取組の状況が報告され、参加者からは「それぞれのまちが創意工夫を凝らし、自信と誇りをもって活動されている姿に無限の可能性を感じた」「東北の地に身をおき、地域文化の可能性を考える機会を得たことは大きな収穫となった」「自分が暮らしている所にも先人の努力により蓄積された豊穡の伝統文化があり、また、新しい文化も芽生えようとしている。文化の力が日本を元気づける牽引役になるという思いで、自分にできることから始めたい」などの感想が寄せられた。

次回開催の招致に 5 自治体が手を挙げ、話し合いの結果、篠山市が第 2 回の開催予定地となった。

## 第3章 ネットワークの構築

### 1. 創造都市ネットワーク会議

#### (1) 取組の概要

##### ① 目的

- 全国ブロック別会議（全7ブロック）、及び創造都市政策セミナーでの討論をふまえ「文化芸術創造都市ネットワーク日本（仮称）」設立の展望を描く。
- 創造都市論の世界的第一人者であるチャールズ・ランドリー氏（英国）を招聘し、新たな知見や我が国の取組進展に向けた示唆を得る。
- 自治体関係者をはじめ全国の取組主体が積極的に交流できる場とする。

##### ② 実施概要

- 日時：平成24年2月4日(土) 13:30～17:30
- 場所：文部科学省講堂
- プログラム
  - 13:30～13:40 開会挨拶／佐々木雅幸（NPO 法人都市文化創造機構 理事長・大阪市立大学教授）
  - 13:40～13:50 主催者挨拶／近藤誠一（文化庁長官）
  - 13:50～14:50 基調講演「世界の創造都市と日本への期待」  
チャールズ・ランドリー（英国、コメディリア代表）
  - 14:50～15:10 特別報告「創造都市ネットワーク・カナダの事例調査から」  
野田邦弘（鳥取大学教授）
  - 15:10～15:30 休憩
  - 15:30～17:00 ラウンドテーブル討論  
「我が国における創造都市ネットワークの役割」  
モデレーター／佐々木雅幸
  - 17:00～17:30 まとめ／佐々木雅幸
- 懇親会
- 17:45～19:00

##### ③ 参加状況

32自治体はじめ、文化団体、大学・研究機関等から157人が参加した。

#### (2) 内容と評価

平成23年度の創造都市ネットワーク会議は、昨年神戸会議の合意を踏まえて、具体的に「創造都市ネットワーク日本（仮称）」を設立するステップとすることを主目的の1つに

した。そのためラウンドテーブル討論の前段として、創造都市についての理解を深める基調講演とカナダにおける創造都市ネットワークの事例報告を設定し、また討論もネットワーク日本（仮称）の設立に主体的に関わる視点から行ってもらえるように、CCNJ 調査研究会の討論経過を「創造都市ネットワーク日本（CCNJ）（仮称）の枠組み整理のための論点及び方向（案）」として配布した。

チャールズ ランドリー氏の講演は世界各国の豊富な事例を画像とともに紹介し、創造都市についての基本的な考え方や、取り組もうとする都市に対する示唆に満ちた内容であった。そのことは、参加者の感想に「実際に都市を考えていく上での考え方の参考になった。とくに「都市が人々を呼び込む時代となった」という点は真摯に受け止めなければいけない点だと思う」「内容も革新的で面白かったが、パワポの構成もとても面白く、パワポを見ているだけでも楽しめた」とあったことに示されている。

創造都市ネットワーク日本（仮称）については、木曽町、東川町、中之条町、篠山市、仙北市といった小規模自治体、及び横浜市、金沢市、可児市、神戸市、鶴岡市、浜松市、新潟市、札幌市、高松市といった中・大規模自治体から積極的な参与の発言があり、そうした意志は最後にアジェンダ「創造都市ネットワーク日本（仮称）の設立に向けて」として採択された。

これまでで最高数の自治体が参加したこと、首長自身の発言（木曽町、可児市、浜松市）やそれに準じる立場からの発言があいついだことも含めて、実践的な会議として大きな成功を収めたと評価できる。

（セミナーでの発言要旨等は添付資料を参照されたい）

## 2. その他

ネットワークの構築については、ブロック別会議、ネットワーク会議、（創造農村ワークショップ）の取組をつうじて主に進めたが、他に 12 月中旬から実施された「『文化芸術創造都市ネットワーク日本（仮称）』の在り方に関する調査研究会」（CCNJ 調査研究会）事業と連携しながら、同事業で行った「創造都市ネットワーク・カナダ」の調査結果及び日本におけるネットワークの枠組みについての研究成果を活用した。

本推進事業が実践的にネットワークの参加を拡大しつつ、CCNJ 調査研究会が現場の疑問に答える情報を収集・整理するという連携関係は、2つの事業に相乗効果をもたらした。こうした取組のあり方は今後の創造都市支援に大きな参考となる。

**【添付資料】**

1. 創造都市政策セミナー要約・アンケート結果・・・・・・・・ 14
2. 創造都市ネットワーク会議要約・アンケート結果・・・・ 29
3. 行事の広報チラシ等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56

## ■創造都市政策セミナー（2012年11月20日）要約



### 【開会挨拶】

#### 近藤誠一（文化庁長官）

この20年ぐらいで、時代は大きく変わりつつあります。ひとつは、物の価値を重視する時代から知識によって経済的価値をつくっていく時代になっていることです。だれでもがアクセスできるインターネット上の膨大な情報の中から選択をする選択能力が重要で、そうした能力をフルに発揮するためにはクリエイティブな才能が必要になっているのです。つまり、単なる知識の量ではなく、質であり、それを使いこなすクリエイティビティがこれからの個人、地域、会社、あるいは国に求められる時代になっていると思います。

もうひとつの流れは、インターネットであらゆる国境、あるいは宗教・文化の違いを超えて世界が結びつくようになったことで、国の単位で物事が動く割合が非常に減ってきていることです。一人ひとりの市民生活に配慮するには国は大き過ぎ、安全保障や地球規模の問題では小さ過ぎます。つまり、生きがいのある生活のためにはクリエイティビティが必要でそれを発揮するのは国よりも都市の役割であり、そのプラットフォームとしての役割が高まっているのです。

創造都市、文化首都への動きは、我がアジアにおいても最近非常に高まりを見せていると思います。ユネスコの創造都市ネットワークにも日本、中国、韓国から幾つかの都市が登録を既にしており、本日もそうしたお話を伺えるのを楽しみにしております。

文化庁も数年前から創造都市の政策を推進しており、成果を上げている都市への文化庁長官表彰など、これからの施策の中で創造都市は大きな役割を占めていくこととなります。



私は、一昨日、フランスのアビニョンで開催された G8 の文化大臣サミットに出席してきました。その際、非常に印象に残ったのはフランスのサルコジ大統領が確信に満ちて、「文化芸術はこれからの人間の支えであり、人間を束ねるものであり、最も人間にとって本質的なものである」と発言していたことです。新聞記者の質問にもいくつかの創造都市の事例を挙げて反論しており、彼の頭の中には創造都市の成功事例が完全に頭に入っているなと感じて大変心強く思ったと思います。そのアビニョンから 24 時間かけて戻ってきて、この会場にいるわけです。サルコジ大統領の力強い発言を聞いた後で、引き続いて創造都市に関する中身の濃いお話を聞くことができると大変楽しみにしております。簡単ですが、私よりの歓迎と期待を込めたご挨拶といたします。

### 【冒頭発言】

#### 佐々木雅幸（大阪市立大学教授）

私どもは世界的な経済危機のど真ん中で、さまざまな困難をかかえながらも創造都市へのムーブメントを営々と続けております。ユネスコについても、アメリカはパレスチナ加盟問題をめぐって分担金を払わないということで、創造都市ネットワークの事業継続についても予断を許さない事態になっております。そうした中で、このセミナーに先立ちソウルで開催されたユネスコ関係の創造都市ネットワーク会議には 29 加盟都市中 24 都市と今後加盟を目指している 17 都市の 41 都市の参加があり、会議は大きく盛り上がりました。この会議の直前にソウル市長選挙があり市長が交代されました。短時間ですが、新市長と意見交換をいたしました。ソウル市役所と市民とのギャップを縮めるために、ボトムアップでコミュニケーションを進めるということで、インクルーシブな包摂型の創造都市を目指そうとしておられるなと感じて共感を覚えました。

創造都市市長サミットではソウル宣言が採択されました。地球規模の経済の中ですが、サステナブル・ディベロップメントに向けて創造都市がどんな役割が果たせるかという内容です。そのためには、私は創造都市自体の持続的発展も大事だと思っております。どの都市も大変な財政危機の中で文化予算が減らされています。そうした中で、創造都市政策が市民の生活の質を上げていくという具体的な成果を示し、市民の理解を得ながら進めることが重要です。これが創造都市政策を持続的に進めるための第 1 要件です。

次に創造都市の継続にとって重要なのは人材の育成です。クリエイティブな人材が草の根から次々に出てくるような環境をどうつくるかです。ポーロニャの DAMS という総合芸術学部の経験が示唆に富んでいます。1970 年に設立されて 40 年間で多くの多彩な人材を輩出し、大学自体が創造産業のセンターになっているのです。知識経済社会における新しい産業の方向性は、まず文化への投資があり、それが人材を育て、クリエイティブな場が生まれ、その次にさまざまなクリエイティブな産業が生まれてくるのです。幾つかの創造都市で特徴的な政策が生まれており、そうした経験を交流しながらさらに深く議論をするためにこのセミナーが開催されているわけです。

2000年以降アジアにおいても創造都市への流れが確実なものになっており、本日はアジアにおける創造都市のネットワークや連携をどうつくっていくか、どのような形で日本とアジアの創造都市と協力関係がとれるのか、率直な意見交換をして次年度以降の流れをつくっていきたいと思っております。どうぞ最後まで熱心にご参加いただきたいと思います。



### 【パネルディスカッション】



#### 花 健（ホア ジアン）（上海社会科学院教授・文化産業研究センター長）

グローバルな創造都市としての追求をしている上海をご紹介します。私たちはグローバルな創造都市を重要なステップとして世界都市になれると考えており、2003年にはニューヨーク、東京、ロンドンといった世界都市を目指すというレポートを発表し、その中で上海は4番目の世界都市になりたいということを掲げています。

その報告書の中に3つの重要な柱があります。まず製造業と同様に近代のサービス産業を重視するというので、この中には当然文化創造産業が含まれます。次に、グローバルなネットワークとつながることを重視しています。さまざまな企業や組織がその本部を上海に置くことが重要だと考えています。さらに、社会や文化の多様性を追求しすぐれた才能を全世界から上海に引きつけたいと考えているのです。

2008年には正式にユネスコに文化のグローバル・メトロポリスとしての戦略を発表し、2010年にはデザインでの創造都市としてユネスコの創造都市ネットワークに加盟を認められました。加盟に先立ち、2005年には「上海クリエイティブ産業発展ガイド」が発表され、その中で5つ基幹産業を推進するとしています。研究設計産業、建築デザイン産業、メディア産業、コンサルティング産業、ファッションデザイン産業の5つをクリエイティブな産業として位置付けています。同時に上海創造都市開発計画を策定し、2006年から2010

年までに文化創造産業の総売り上げを 3,500 億元とし、付加価値額は 1,000 億元を目指すとしています。2004 年から 2010 年まで文化産業は、上海が生み出す GDP の 5.4% から 5.6% へとだんだん伸びていっております。今年からは 2011 年から 2015 年までをカバーする上海文化クリエイティブ産業開発計画を発表しました。この計画の中で 2015 年までに文化創造産業を上海の GDP の 12% にすることを目標にしています。上海は多くの文化産業のクラスターが集積するところで、都市の振興、開発を目指す中で非常に影響力のある創造都市になり、教育訓練やトレーニングによってさらなるレベルアップが期待できるのです。

創造都市を推進するための政策や支援のシステムについてですが、まず、金融面でのサポートによって工業団地やサービス産業の基盤をつくり、国際的な文化交流や取引を活発化して文化産業やクリエイティブな産業を振興しようと考えています。こうした政策の推進をさらに加速するために、それらに対して税金の優遇措置が講じられています。2010 年までに上海はこうしたクリエイティブ・クラスターを 80 以上も持っており、カルチャー工業団地と呼べるものを 15 も持つに至っています。たとえば、上海の古い倉庫などがある地区を、歴史的な遺産として保存しつつクリエイティブな工業団地として再生しています。こうした手法で開発コストを抑え、賃料なども政府が管理することで新たな企業が入り創造的な工業団地ができるというわけです。

上海の行政区である各自治体もクリエイティブな産業の振興を行っています。たとえば、上海の裏東新区という自治体では、国際見本市の開催を支援し、賃料を安くしてクリエイティブな企業が参加しやすくしたり、表彰したり、税の優遇措置を講じるなどさまざまなサポートを行っています。

2010 年には金融産業がクリエイティブな産業を支援できるようにガイダンスを公表しています。上海に金融センターがあるということは重要な利点であり、文化的な産業やクリエイティブな産業に焦点を定めて支援ができるということです。たとえば、中国開発銀行や上海銀行が文化的な色彩を持った金融商品を用意して、知的財産を担保にして融資をするとか、保険会社が保障をするとかです。そうしたことをガイダンスでは奨励しており、金融産業がクリエイティブな産業を振興できるようセミナーなどを通じて啓発も行っていきます。

また、最初に文化的財産の取引所ができたのが上海であるということも、ポリシーを持ってこれまで取り組んできたからだと思います。これによって、著作権やビデオゲームなどの知的財産を取引するためのプラットフォームが構築されたのであります。さらに、文化的な産業を支援する投資ファンドという形でチャイニーズ・メディア・キャピタルと呼ばれるものが創設されました。この投資ファンドには当初 20 億人民元が集まりましたが、さらに 50 億人民元まで集まることを考えております。これによって文化的産業やメディア産業への株式投資を盛んにしようということです。

また、関税のない自由貿易区、FTZ が上海の外高橋につくられ、有効に活用されています。これは中国の各企業が国際的な文化にかかわる貿易ができるように、また海外の市場

に出ていけるようにつくられたものです。

クリエイティブな産業の振興のために政府、企業、学会との緊密な協力関係を築くためのプラットフォームが構築されていることが重要です。これには、インダストリー・テクノロジー・サービス・プラットフォーム、マルチメディア・サービス・プラットフォーム、ファイナンス・サービス・プラットフォームなどがあり、これらが非常に重要な役割を果たしているのです。

### 金 海 補 (キム エ ボ) (ソウル文化財団政策研究室長)

ソウル市行政の下にあるソウル文化財団から来ました金海補と申します。ソウルに新しい市長が最近誕生しました。朴元淳市長です。彼は無党派の市長で、この選挙結果は明らかに人々の価値観が変わってきたと理解できますし、政治的立場によって危機と考える人もいますし、時代の変化だと考える人もいるでしょう。今回の選挙では非常に小さなスタジオで、しかも 4 人という少人数でつくられたアナゴースーンというビデオがインターネット上で 600 万回もダウンロードされたことが注目されます。そうして、こうした試みが若い人々に支持され、ソーシャル・ネットワーク・サービスを通じてゲームのように政治状況を変えていったわけです。インターネットを活用した新しいメディアが日常生活まで変えていくのではないかと言われています。デザイン都市として創造都市政策を進めたのは前市長ですが、「あなたの生活を変えることのできる」市長として登場した朴市長には世代間の大きなギャップを埋める役割が期待されます。

ソウルの文化政策ですが、2006 年に前市長によってデザイン都市としてユネスコ創造都市に加盟しました。2015 年までの文化都市としてのソウルの展望が戦略として示されており、その中で人間性を理念の中心にしています。しかし、これは言葉だけでは説得力はなく、具体的な予算という数字で示されます。ソウルの来年の文化芸術系の予算は 2.2%で、その中の 10%が私どもの財団に回されています。文化都市として改善していきたい指標がありますが、どの程度まで改善できたかは、まだ評価をするには時期尚早で、2 年後のソウルがどうなっているかを見ていかねばなりません。

私どもが重視しているのは、アートワークによって文化的な経験が価値を生み出すということです。文化的なビジネスはお金を生み出すけれども、内なる心の動きが文化施策担当者への信頼性を高め文化政策の持続的な展開につながり、ひいては共通の文化や伝統を共有することでコミュニティの回復につながっていくのです。

アートワークとして実施してきた文化戦略は経済効果が重視されますが、そのイベントの価値、すなわち物語性や信頼性、持続性などの無形の価値が目に見えず、これまで政策に取り入れられることが難しかったわけです。しかし、インターネットなどの技術の発達で、こうした無形の価値のやりとりが可能になってきたのです。私たちは、創造都市戦略を「人間的な都市 (human-city、仁義都市)」戦略という言葉に置き換えて、無形の価値を活かしていこうと考えております。我が国では、「創」という漢字には、ナイフで先端を

切って開始するという意味があります。一方、「仁義：humanity and justice」には普遍的な愛、調和、正義という意味があります。創造都市戦略において、経済効果を示す数値も重要ですが、無形の価値をより重視することで人間的な都市へのパラダイム転換を果たさねばなりません。人間的な都市とは何かについて言葉で説得し市民の信頼を勝ち取ることが文化政策の目標となるべきだと考えております。

グローバル化した時代にあっても文化に多様性があるように文化政策にも多様性があります。アジアの諸都市においてもこうした多様性を活かし、アジアの知恵を活かした創造都市戦略が必要なのです。アジアにおける創造都市ネットワークにとって、アジアの知恵とは何かを充分吟味し、グローバルに発信していくことが最初の一步ではないかと考えているところです。

### 榎本 政規（鶴岡市長）

山形県鶴岡市は日本海に面した面積 1,300 平方キロ、人口 14 万人の文化性にあふれた食材の宝庫です。先人たちは、この豊かな自然の恵みを活かして地域特有の食文化を築いてきました。鶴岡では、四季折々の食材の豊富さと多様性には定評があり、旬の食材を活かした料理の数々を 1 年中楽しむことができます。また、鶴岡は全国有数の稲作地帯であり、多様な品種開発の中から非常においしい「つや姫」を生産し、おいしい米を活かした酒づくりも盛んです。多彩な食材を活かした食品製造業もあり、農業のための機械製造業や、最近では電子電気産業も盛んであります。

食文化都市をめざす鶴岡では、文化庁芸術文化創造都市モデル事業や国際交流基金事業に採択された次のような活動を進めています。

- 地域の山伏修験道文化と伝統料理をパリで紹介した事業
- 鶴岡の在来作物を使った伝統料理と新しい料理のレシピを掲載した書籍の出版
- 鶴岡の特色ある食文化をフェイスブックなどのソーシャルメディアを使って発信する事業（女性レポーターを一般公募）
- 農産物を活用したグルメ商品の開発
- 食文化にまつわる映画を上映し、関連の料理を地域のレストランで味わう鶴岡食文化映画祭（山形の食材をテーマとした「よみがえりのレシピ」の上映を中心に開催中）

以上の他に、食文化フォトコンテスト、市内のシェフと子どもたちの交流イベントなど多彩な取り組みを展開しております。こうした取り組みは、本地域の産学官民の連携のもとに設立した鶴岡食文化創造都市推進協議会が主体となって取り組んでおり、地域を挙げて伝統食文化の保存継承と、新しい食文化の創造を目指しております。

鶴岡市はユネスコの創造都市ネットワークへの参加を強く希望しております。それは、以下の点で世界に貢献したいと考えているからです。

国内屈指の多様な食材の宝庫として、日本の地方都市を代表する伝統的な家庭料理の継承と発展に努め、日本の農山漁村の持つ普遍的な価値を高め、食文化の多様性の維持に貢

献したいと考えています。また、地域の農林水産業従事者、あるいは研究者と中小企業従事者との連携を構築することで新しい産業の創出を図り、そのノウハウを加盟都市間で共有することによって、より一層の新しい発展に貢献したいと考えています。さらに、創造都市ネットワークのもとでクリエイティブ・ツーリズムを創出し、注目すべき技術を有する食品加工業者や、食と農をテーマとした新しいプログラムに取り組む観光業者、食にかかわる先端的な研究を展開する高等研究機関などが積極的に交流する機会を生み出すよう、積極的な行動を起こしたいと考えております。



○佐々木 人口2000万人近い大都市から創造農村に近い都市までアジアにおける創造都市の多様なチャレンジをお話いただきました。まず、近藤長官から全般的なコメントを願います。

○近藤 まず、第1にこうした文化創造分野へ資源（予算や人材など）を集中することについて、市民の理解や支持をどのようにして獲得されたのかをお聞きしたいのです。すぐに成果を生むわけではないけれども、中長期的には最も効果的なまちの活性化なんだとどうやって説得されたのか。あわせて、それを担っていく人材の育成戦略について拝聴できればと思います。

2つ目は、特に上海のフリー・トレード・ゾーン（FTZ）などのインセンティブは上海だけでできるのか、それとも北京との調整があって国としての方針でまち単位でFTZのようなものができるのかお伺いしたい。

3つ目は、アジアの創造都市ネットワークという観点で、特別の付加価値のあるネットワークがアジアでつくれるのかについて議論を深めていただければと思います。

○佐々木 まず、ホア先生にお伺いします。中央政府の権限や財源と上海市独自の権限

と財源の組み合わせがどのようになっているのか、それから非常に多くの市民がいるのですが、市民と都市政府の関係がどうなっているのか、2点についてお聞きしたいのですが。

○ホア 上海市の当局には非常に特別なポリシーがあると思います。特に創造都市のポリシーは上海全体の戦略につながっており、東京、ニューヨーク、ロンドンに続く第4の世界都市として名乗りを上げるということです。そのためには、サービス産業を先進のものとして推進する必要があり、クリエイティブな世界都市としての認識もそこにあります。そのために上海は都市レベルよりも大きなフレームワークを形成しようとしています。上海市の中に行政区として自治体があり、政府としてクリエイティブな都市をつくろうとしています。上海市は、そのフレームワークをつくったということです。たとえば、国際空港や国際見本市など裏東新区での取り組みを上海市の独自のポリシーでサポートしてきたのです。

○佐々木 少し補足をしますと、中国政府が2004年か2005年に創造産業振興計画を設立し、そのもとで上海市が5つのジャンルの創造産業を指定して振興する政策を体系化するのです。次にキム先生にお伺いしたいのですが、先ほどご報告いただいた「人間的な都市(human-city、仁義都市)」ですが、これに向けてソウルでは市民とのコミュニケーションをどのように進めておられるのか、キム先生ご自身のアイデアでけっこうですからお話ください。

○キム 市民とのコミュニケーションの例として社会的企業への援助があります。それは社会的企業が社会的価値を生み出すから支援するわけで、アート教育やデザイン活動などに市民を巻き込んでいくという期待があるからです。社会的企業への支援は、特に若い世代に新たな雇用の機会を提供し、その活動を通じて失業率の低下など社会問題の解決にもつながると考えています。社会的企業が展開するプロジェクトには市民や学生を巻き込んでいく教育プログラムや芸術文化のトレーニング・プログラムがあり、そうした活動を通じて専門家と市民、アーティストと市民、市民と行政とのコミュニケーションが密になっていくわけです。

○佐々木 ありがとうございます。次に榎本市長には4つある大学が現在果たしている役割と今後の期待についてお話しいただけますか。

○榎本 4つの大学とは、鶴岡工業高等専門学校、山形大学農学部、慶応義塾大学の先端生命科学研究所、東北公益文科大学です。これらの4つの大学が、それぞれものづくり、農業部門、先端のバイオ研究、公益という分野で地域の特性を活かした地域づくりに参画していただいております。その中でも民間の種の改良に裏付けをしてくれる山形大学農学部、農産物の食味分析など農産物に付加価値をつけていただく研究の慶応大学先端研などが私どもの食文化を支える高等教育機関であると位置付けており、鶴岡食文化創造都市推進協議会や鶴岡農商工観連携推進協議会にも参画いただいております。

○佐々木 創造都市政策を進めるには都市の自治体、民間のビジネスグループ、アーティスト、NPO、大学などのアクターがうまく連携をとればダイナミックな展開ができる

と思いますが鶴岡にはその多様な可能性を感じます。今回ユネスコ申請という高い志をお持ちなので、ぜひ頑張っていたいただきたいと思います。

討論の後半はアジアにおける創造都市の方向性や可能性、課題について議論を進めたいと思います。ボローニャのマウロさんから欧州文化首都などヨーロッパでの経験を踏まえて、アジア文化都市の展開について何かアドバイスをいただけますか。

○マウロ 創造都市政策を展開するにあたっては、上海のように強力な政治的意思と豊富なリソースがある場合とそうでない場合があります。上海のような条件がなくても、自らのリソースを活用して創造都市へのアプローチは可能です。たとえば、都市を庭園と考へて庭師のような態度で水や太陽の恵みをうけて花をコラボージュするように最善のプランをつくることができます。その場合、



都市の短所ではなく長所を活かそうとする姿勢が大切です。このような、工学志向ではなくガーデニング志向型の創造都市も欧州の経験からアドバイスできると思います。ボローニャは1999年に欧州文化首都ということで、当時は文化関連の予算が7%くらいありましたが、その後の政治状況の変化もあり、現在では4%から5%になっており、今日のお話はぜひ参考になりました。

○佐々木 小さな庭に水をやりながら順番にゆっくりゆっくり花を育てていく、そういう楽しみを持ちながら創造都市をゆっくり育てたらどうですかという、マウロさんのセッションでした。ボローニャの文化予算7%というのはヨーロッパでも非常に高いものです。ソウルは2.2%ですが、これでも日本から見れば高いと感じます。日本では金沢市が高いときで3%から4%あったのですが、大阪市などは0.2%という現状で、日本で文化予算に市民の理解を得ることは困難ですが、そんな中で皆さん努力をしてきたということです。

創造都市のネットワークには、国際的なレベル、欧州やアジア全体のレベル、ある国のレベルなどでお互いの経験を交流したり、国への政策提言をすることなども出てきます。日本でも国内の創造都市ネットワークの結成を準備しておりますので、後半ではそうした連携の可能性について議論していきたいと考えております。

それでは順番を変えまして、鶴岡市の榎本市長さんからお願いします。

○榎本 私どもは人口14万人という小さな都市ですが、創造都市ネットワークに加盟するうえでは市民の理解が得やすく、市民がまとまって行動できるのではないかと考えています。ソウルでのユネスコ会議に参加して感じたのですが、食文化、歴史など非常に密接な関係があったのですね。中国、韓国、日本は北東アジアにおいて文化の共通性を活かし



た連携で今後大きな国際貢献ができるのではないかと感じております。鶴岡市は小さな地方都市ですが、食文化を通してこれらアジアの諸都市とつながり、日本においては創造都市ネットワークの連携をとっていきたいと考えております。

○佐々木 小さくてまとまりがいいというお話でしたが、この10月15日に仙北市とわらび座さんのご支援で創造農村ワークショップというのをやりました。大きな都市も小さな都市もネットワークの中で、それぞれの役割を果たすことができると思います。

韓国での創造都市のネットワークやアジアでの創造都市のネットワークの可能性について、キムさん個人の考えでけっこうですので、お願いします。

○キム ネットワークについて考えますと都市間での姉妹都市とか理解覚書などで協力するというやり方があります。都市間の交流を通じてNGO、NPOの活動が活発になり、その結果政府や自治体の助成金なども出やすくなると思います。また、ネットワークづくりには都市のマーケティングという発想が必要です。これは自治体の戦略として市場分析が必要であるということで、たとえば、どの地域やどの国が我々の食べ物を気に入ってくれるかを考えるわけです。それから、いろんなレベルで人と人が交流できる基盤をつくることも重要です。これは、フェスティバルなどを開催してアーティストなどが交流する機会をつくり、クリエイティブ・クラスターの形成を図っていくなどです。人と人のつながりや交流は民間の活動でもできますが、それを裏方に徹して支援をするのが政府の重要な役割です。ネットワークを支えるのは個人レベルの交流だと考えるからです。

○佐々木 ホア先生、中国でのネットワークの状況やアジアでのネットワークの可能性などについて、お話し願えますか。

○ホア 創造都市のネットワークですが少しずつ広がっています。上海では毎年クリエイティブ・インダストリー・ウィークが開催されますが、これに他の都市を招待して創造都市についての経験を交流し合うわけです。北京市内には北京大学などの大学がありますが、そこからの代表団もこれに参加しています。こうした交流を重ねる中で、将来には正式な中国のクリエイティブ・シティ・ネットワークができると考えております。

○佐々木 これまでの議論をお聞きになって、近藤長官からいかがでしょうか。

○近藤 日本や東アジアで創造都市のネットワークをつくるときに、ヨーロッパとは違う特別な意味は何かをいうことを考えながらお話を伺っておりました。ヨーロッパと比べると東アジアの我々はより精神的な価値に敏感ではないかなと思うのです。物質的、経済的あるいは観光資源といった観点以上に地域の活性化とか人々のアイデンティティに一層の価値を見ているような気がします。東アジアでネットワークを組む場合は、そういう面の価値をお互いに認識し合い、そのうえでそれぞれの国での経験を学び合うことが特別の意味かなと思います。

キムさんがおっしゃったように、アジアでネットワークをつくって学び合う場合には、人と人の交流が重要だと思います。キムさんが言われたいろんなレベルでの交流はもちろん大切ですが、より長期的な交流や人の交換が必要ではないかと思うのです。アーティスト

や NGO や創造都市を担当する役所の職員が、半年、1年、2年という単位でネットワークの諸都市で交流、交換をして、その創造都市づくりに参加してはどうかと思うのです。そうすると、思わぬ貢献ができたや教訓が得られたりするのではないかなと、今思いついたのです。そうすると先ほど私が申し上げた精神的な価値以上のなにか素晴らしい価値が新たに交流によって見出されるかもしれません。

○佐々木 今思いつかれたという創造都市政策職員交流プログラムにはまったく同感です。あくまで都市のネットワークですが、中央政府が創造都市での経験や知識の交流を下から支えるということが特別大事だと思います。近藤長官のアイデアはぜひアジア文化大臣会議などでもお話いただけたらいいなと思いました。

私も日本でのネットワークを考えていくときに、キムさんの言われたように都市間の協定書は大事なのですが、それだけではダイナミズムは生まれません。NPO や NGO の参加、中でもアーティストの NPO や NGO がネットワークにどのような形で加わるのかが大きなテーマになっています。ユネスコの創造都市ネットワークでは市長さんや政策担当者の集まりになっているのが少し物足りないと感じているのです。日本でネットワークを立ち上げる場合は NPO や NGO も含めたやわらかい組織のあり方でいいのかなと思っておりす。ただ、いつまでも議論ばかりを続けているわけにはいきませんので、スタートを2月4日と設定して創造都市ネットワーク設立の準備会を開きたいと考えています。これには私の友人でもあるチャールズ・ランドリーさんが駆けつけてくれる予定になっています。それでは、会場からご意見をいただいてまとめに入りたいと思います。

○会場発言 1 作曲の世界でもデジタル化が進んできて、日本の法律がそれについて来ていないと感じています。そんなこともあってアジアに出づらいのが正直なところす。アジア創造都市ネットワークはとてもいいことで、個人としてもどんどん交流していきたいなとこのセミナーに参加して思うようになりました。

○会場発言 2 同じユネスコでも世界遺産と違って、クリエイティブ・シティ・ネットワークと言っても具体的にどのような事業をするかを明確に出していかないと市民に理解されなと思います。たとえば、今年京都であった京都国民文化祭のような事業をやらないと、市民に非常に分かりにくいキーワードになっていると思うのです。

○会場発言 3 創造都市には産業面などいろんな問題がありますが、それは手段であって、創造都市の本来の目的はそこに住んでいる人々の福祉、つまり幸せである状態を担保する手段として創造都市があるのです。ですから、創造都市が先にあって、それを市民が分からないというのはおかしいと思います。人間を中心に据えて、その手段としてさまざまな産業や、クリエイ



ティブ・クラスの間があるものであって、真ん中に創造都市とか文化があるわけではないんですね。

○**会場発言 4** 先ほどの近藤長官が言われたアジアのネットワークにおける精神性は3.11以後より一段と日々感じているところです。神戸の大震災のあと、復興過程で近隣の農村との関係がとて深かったと担当者が語っておられました。日本でのネットワークを考える場合は最初から都市と農村のネットワークを意識的に考えてほしいなと思います。

○**佐々木** ここまでのところで、長官から一言お願いいたします。

○**近藤** 先ほどの人間が先かアイデアが先かという問題ですが、二つに分けて考えるのではなく、常に政策推進者と市民がインターラクティブに対話をしながらつくっていくことで解決するのではないかと思います。トップダウンかボトムアップかの二者択一ではなくて一緒にやっていくことではないかと思います。それこそが、日本の地域の活性化に最も大事なことだと改めて感じました。

○**佐々木** 私の方からも感想を述べさせていただいて、まとめたいと思います。

創造都市は非常に美しい言葉ですが、政策概念としてまだ成熟途上でして、専門家の間でも「そんなもん知らん」という状況があります。しかし、私は必ずこの言葉は10年、20年たっても残るし、その意味が増してくる言葉であると考えています。

ソウルもそうですが、市長が交代すると創造都市のニュアンスが変わるかもしれませんが、市民の生活の質を上げて、市民の豊かな文化生活をつくり上げるという創造都市の本質は変わりません。そうでないと、世界経済を破綻させかねない金融中心の古いタイプの経済は変わらないのです。私は、キムさんが今日言われたように、文化芸術が持っている固有の価値がグローバルエコノミーの中心に座ってこない、人間はまた愚かな競争や戦争に巻き込まれてしまうのではないかと感じています。そうさせないために、これまで重ねてきた創造産業や創造都市の政策群は持続的に発展させていくべきだと考えています。

幸いなことに、日本では文化庁に応援していただきましたし、経済産業省も10年かかりましたが、この7月1日にクリエイティブ産業課ができました。やっと中国や韓国に追いついたところ。今日は、これから創造都市ネットワークをどのように豊かにしていけるかを考える上で、会場からも貴重なご意見をいただきました。たとえば、国民文化祭なども創造都市と創造農村の連携を進めるためのフェスティバルやウイークになってもいいのです。そういう意識をネットワーク事業の中心に据えることができれば、新しい挑戦になってくると思っております。

海外のゲストの皆さん、会場の皆さんありがとうございました。本日は、これにて終わりたいと思います。

(敬称略、文責編集者)

創造都市政策セミナー：平成23年11月20日開催					
アンケート集計結果(回答者：28名)					
～集計表～					
1. セミナーの認知経路(複数回答)			3. ネットワーク参加の意思		
項目	回答数	回答率	項目	回答数	回答率
①ホームページ	5	17.9%	①ぜひ参加したい	7	25.0%
②メールニュース	10	35.7%	②参加について検討する	13	46.4%
③ブロック会議での案内	4	14.3%	③よくわからない	5	17.9%
④チラシ	1	3.6%	④参加しない	0	0.0%
⑤知人・友人からの紹介	2	7.1%	無回答	3	10.7%
⑥勤務先・活動先の紹介	9	32.1%	合計	28	100.0%
⑦その他	4	14.3%			
無回答	0	0.0%			
合計	28	100.0%			
2. 内容の評価			5. 自由記述		
項目	回答数	回答率	項目	回答数	回答率
①非常に良かった	12	42.9%	回答あり	12	42.9%
②良かった	15	53.6%	無回答	16	57.1%
③あまり良くなかった	0	0.0%	合計	28	100.0%
④非常に良くなかった	0	0.0%			
無回答	1	3.6%			
合計	28	100.0%			

## ～回答の理由、自由記述等～

### 2. 内容の評価

#### ①非常に良かった

とくに上海・ソウルの取り組みに感銘を受けた。  
世界的な創造都市の動きがわかった。  
各都市の報告を受け、創造都市実現に様々なアプローチがあることを再認識。  
各々の発展をお聞きし、非常に前向きで目標に向かっておられ、市民の一人として今後の勉強を深めたいと存じます。

#### ②良かった

上海市の創造都市に対する取り組みに対して、イメージができたため。  
日本の事例をもう一都市聞きたかった。内容が充実してよかったと思います。  
飛躍が目覚ましい上海とソウルの新しい情報を得ることができたから。  
各都市の取り組みや参加者の考え方が参考になった。

### 3. ネットワーク参加の意思

#### ①ぜひ参加したい

クリエイティブ産業政策のスキームを考えているため。  
あいちトリエンナーレ終了後の長者町とアートイベント等、継続したい。

#### ②参加について検討する

市としての方針決定を行う必要あり。

#### ③よくわからない

民間の人間なので。  
詳細がわかってからの組織判断になります。  
参加の意思を表明する立場にないが、浜松市はぜひ参加すべきと思う。

### 5. 自由記述

アートNPOやアーティストの現場レベルの話ができる機会がほしい。  
人・市民の精神的豊かさを根本にすえた考え方には共感する！ 意識を変えましょう！ 自立しましょう！ 行政に頼りだけの文化創造から脱出しましょう！ 自分たちの幸せは自分たちで！！  
日本・アジア・ヨーロッパの順でネットワーク化をさらに進めてほしい(都市問題の解決に他都市の事例はとても役立つ)。  
ネットワークを途上国の諸都市に広げていくための方策について、議論がなされると良かったのではないと思う。  
専門家(大学教授・研究者)および行政で、それらに関わる職務の職員、市民の一部の理解する創造都市と、行政のその他の職員、多くの市民とのギャップをどう埋めるか。この点についてまだまだハードルが高いと感じた。本日のセミナーも関心のある人々の集まりで、これらをどうブレイクダウンするかが課題である。  
NPOのレベルでもネットワークに加わる余地を残してほしい。  
初日に参加できなかったのが、的外れかもしれませんが、巨大都市の上海・ソウルと鶴岡市とのパネルはちょっと判断が難しい。基本的には世界の巨大都市ははずすべきではないか。もっと限界集落的な都市から中都市のパネルにしてみたらどうかと参考になると思った。  
成長著しいアジアの動きを知り、または日本の都市の魅力を高めるきっかけとして、目を開かせる意味で、今日のようなセミナーは大変有意義だと思った。  
歴史的・文化的にも非常に関連の深いアジアのネットワークが形成されることは大変興味深いことであり、アジア全体の発展が世界にも大きな影響を与えたいと思います。  
お世話になりました。  
理念やマクロ的な方法論とともに、具体的な事項に関する議論が行われるとよいと思います。たとえば分科会として、クリエイターや社会的起業家による実践論、各都市における具体的な事例の検証など。  
横浜市の見解は、行政担当としては非常に理解できる。日本のネットワーク構築は、国内都市としてとても有意義なもの考える。

創造都市政策セミナー 参加者アンケート

今後のセミナーの充実と創造都市を目指す方々とのネットワーク構築のため、率直なご意見・ご感想をお聞かせください。回答は記名式ですが、主催者（事務局）が統計的に処理し、個々の回答者のお名前や回答内容を公表または第三者に提供することはありませんので、ご協力よろしくお願い申し上げます。

はじめに、あなた様のお名前と所属をご記入ください。

お名前：	所属
------	----

問 1. 本セミナーを何でお知りになりましたか。該当するもの全てに○を付けてください。

- ①ホームページ（文化庁、都市文化創造機構、その他：具体的に）
- ②メールニュースでの情報提供（具体的に）
- ③地方ブロック別会議（文化芸術創造都市事業）での案内
- ④チラシ
- ⑤知人・友人からの紹介
- ⑥勤務先・活動先からの紹介
- ⑦その他（具体的に）

問 2. 本セミナーの内容についての評価とご意見・ご感想等をお聞かせください。

- ①非常に良かった
  - ②良かった
  - ③あまり良くなかった
  - ④非常に良くなかった
- その理由（ ）

問 3. 創造都市のネットワークが構築された場合に参加されますか。

- ①是非参加したい
  - ②参加について検討する
  - ③よく分からない
  - ④参加しない
- その理由（ ）

問 4. 都市文化創造機構では月 1 回程度、創造都市に関する情報をメールニュースとして発信しています。

今後、ニュースをお送りしてもよろしいですか？

- ①希望する→お名前： \_\_\_\_\_ メールアドレス： \_\_\_\_\_
- ②希望しない
- ③すでに提供されている
- ④よく分からない

問 5. その他、創造都市を目指す上での問題点や課題、本セミナーや創造都市ネットワークに関するご意見・ご感想や要望等について、自由にお書きください。

ご回答ありがとうございました。お帰りの際に回収箱に投函またはスタッフに必ずお渡しいただきますようお願い申し上げます。 NPO 法人 都市文化創造機構 平成 23 年 11 月 20 日

## ■創造都市ネットワーク会議（2012年2月4日）要約

### 【開会挨拶】

#### 佐々木雅幸（NPO 法人都市文化創造機構理事長）

日本での創造都市への取り組みを振り返りますと、2001年以降金沢市や横浜市が具体的な都市政策の中でさまざまなチャレンジをされました。その後、2007年に「世界創造都市フォーラム in OSAKA」が開催され、2008年2月には同じく大阪で創造都市ラウンドテーブル会議を開催することが出来、この年度から文化庁長官表彰〔文化芸術創造都市部門〕が始まりました。



世界の動向としてはユネスコが創造都市ネットワークを始めていましたので、2008年の秋には文化庁長官表彰を受けた金沢市、横浜市、近江八幡市、沖縄市とボローニャ、サンタフェ、ベルリンなどの代表を加えて金沢市でラウンドテーブル会議を開催しました。さらに2009年度には文化庁が文化芸術創造都市推進事業を創設され、さらなる後押しをしていただくようになりました。この年の9月には横浜で「クリエイティブシティ国際会議」が開催され、それに合わせて第1回のネットワーク会議が開催出来ました。その後2011年1月に第2回の会議を神戸市で開催しました。神戸市は阪神淡路大震災からの復興の際、芸術文化によって人々の暮らしを豊かにし元気を出すのだということで「創造的復興」と名づけ、ユネスコの創造都市ネットワークにデザイン部門で登録されました。東日本大震災からの復興においても、この創造的復興という視点は外せないでしょう。

こうした歴史的な積み重ねの上に立って、本年度は全国7ブロックの単位で会議を開催することが出来、政策レベルの経験交流をどのように進めるかという話し合いをさせていただきました。また、世界創造都市フォーラムや創造農村ワークショップなど全国でさまざまなイベントが連続的に開催されるようになってきました。本日は、各自治体あるいはNPO、市民などの立場から、どのように日本らしい創造都市ネットワークをつくり出していくのかを中心に議論を進めたいと考えております。かなり欲張った構成ですが、最後まで熱心な討論をお願いいたします。

## 【主催者挨拶】

### 近藤誠一（文化庁長官）

文化庁の政策の中で文化芸術の潜在力をフルに使って、そして都市を軸にして日本を活性化していくということが非常に重要な政策テーマになっております。昨年の 3.11 は我々がぼんやりとは考えていたことをはっきりと気づかせてくれたと思います。気づいても実



行しなければ、これだけの災害を将来に向かって活かすということにはならないと思います。自然エネルギーの導入も重要な課題ですが、地方主権と文化芸術の潜在力の活用も重要です。日本人には大変な力や才能、クリエイティビティがありながら、それが活かされないまま古いパラダイムを引きずっているという状況だったと思います。そこにショックを与えてくれたのが 3.11 です。震災からの復興にそうした日本人の特性を大いに建設的に活かすべきです。

そういう意味で、地方主権と文化芸術の潜在力を見事に結びつけるのが、この創造都市という概念だと思います。それぞれの地に根づく伝統、歴史、芸能などを、そこに住んでいる人々が見つめ直し、外からも人を招いてお互いに議論をすることによって、刺激されて新しいアイデアやインスピレーションが生まれる。そういうことが行われることが日本の活性化にとって一番有効な方法だと思います。それを実現する仕組みが、創造都市ネットワークだと思うのです。

今日は、ランドリーさんのお話から最近のヨーロッパの動きをお聞きし、いろいろとヒントをいただけたと思いますので、我々も独自の、しかし世界に通用する創造都市ネットワークをつくっていかねばと思っております。



## 【基調講演】 「世界の創造都市と日本への期待」

チャールズ・ランドリー（「コメディア」代表）



### 創造都市の前提と5つの要素

創造都市とは何か、どこから来て、どこへ行くのか、今日はそういう全体像をお話したいと思います。はっきりしていることは、創造的でない都市は下降の一途をたどり衰退するしかないということです。金融危機に直面している現在、創造都市になるかどうかという議論の余地はありません。今すぐ創造都市になるべく実行しないとイケないのです。

創造都市の前提とは何でしょうか。まず、お互いの考えをとりまとめていく力を持っていること。そして、何が資源なのかと世界を見渡し、その中から価値ある資源を見きわめ、その資源によって新しい可能性を模索することです。別の前提もあります。それは常に別の見方や考え方を用意することです。たとえばゴミのような汚いものを見て、資源と捉えることができるか、あるいは困難にぶつかったとき全く新しい解決方法を見出せるか。これこそが創造都市のあるべき姿なのです。表面だけではなく中身を見つめることが重要です。柔軟に考えたり、広い視野で全体像を見据え、どこに焦点を当てるべきかをすばやく考えることも大切です。

定義に関わる前提として、まず、創造都市は人々に力を与え、民主的でなくてはなりません。市民がイマジネーションを駆使して行動できる力を与えられていなくてはなりません。そして経済性も重要で、経済のことも考える必要があります。つまり、創造性は都市にとって新しい貨幣のようなものであり、資本となっていきます。さらに、もともと住んでいる人だけでなく、周りの人たちも引きつける力を持っている都市、これが重要です。

以上をまとめると、クリエイティブで人の住める場所というのは、「錨を下ろせる場所 place of anchorage」であり、「可能性を秘めた場所 place of possibility」であり、そこから世界に手を広げていくことの出来る「つながりの場所 place of (re)connection」であり、「学習と変化の場所 place of learning and change」でもあり、「インスピレーションに満ちた場所 place of inspiration」であるということです。単純に聞こえるでしょうが、これが創造都市の根幹をなす5つの要素です。

### なぜ創造都市が必要か

私たちは非常に大きな変化のときを迎えています。中国やインドの台頭、これらが大きな変化の一つの証左でしょう。さらに、ますます世界は縮小して、その中でさまざまな新

しいテクノロジーが生み出されています。インターネットによって、仮想の世界で我々はグローバルにつながっていますが、同時にそれぞれの地域に錨を下ろして暮らしています。日本は農業国から工業国になり、さらに知識集約社会へと変化しましたが、大事なことは知識を生み出す力をつくっていくことです。その前提条件をつくらないと創造都市へのスタートは切れません。世界の他の地域から見て、ユニークであり魅力の源泉である都市が日本にあるのか、日本独自の創造性はあるのかどうか重要なポイントです。

イギリスも日本も天然資源の少ない国で、効率性を上げて品質重視の製品をつくりあげて世界から称賛を浴びてきました。しかし、世界は品質重視からデザイン重視に移っています。たとえばアップル社が生み出したパソコンや携帯電話は、デザインと機能が一体になっており、それが私たちを「この商品が欲しい」という気持ちにさせます。日本はこれまですぐれた製品を生み出してきましたが、組織の運営方法、企業経営のあり方は今、世界で起こっている水平的な展開になじまないかもしれません。競争力の源泉が創造性になっている現在、これまでのような日本の組織運営は創造力を醸成する上でよい環境なのか、これは皆さんご自身で考えていただきたい課題です。

### **思考こそ資源**

そしてもう一つ、今は思考が資源になっています。皆さんの考えそのものが資源なのです。たとえば、世界各地でさまざまなフェスティバルが開催されていますが、アートや音楽に関するものだけではなく、「アイデアフェスティバル」というものが生まれています。つまり、会話やディベートをおこなったり、アイデアを交換するフェスティバルがどんどん開かれるようになっていきます。会話を交わす中から「おお、これはいい！」というヒントが得られ、私たちが世界を見るときの見方が変わってくるのです。これを思考のパラダイムシフトと呼ぶことが出来るかも知れません。

### **創造性のサイクル**

創造性についてはひとつのサイクルがあります。まず、創造性以上に大切なのは興味や関心をもつことです。興味や関心はまさにスタートポイントで、これらがあればイマジネーションが広がり、さまざまな可能性が生まれます。そこから具体的でクリエイティブなアイデアを持つことが出来れば文化的あるいは社会的な発明につながるでしょう。それがイノベーションを引き起こし、また新たな関心や興味を引き出すというサイクルが生まれます。

もちろんアイデアも必要ですが、そのアイデアを具現化することが出来なければ、アイデアは存在しないのと同じです。創造都市ネットワークでは何を行うのでしょうか。書類に何を書くかではなく、人々と関わり、ディスカッションによって新しいアイデアを生み出し、それをどのように具現化していくのかを常に意識していることが重要です

## さまざまな革新

さらに重要なのは組織的な革新です。これはヨーロッパも同じですが官僚制度を変えていく必要があります。官僚制度の変革が創造都市の議論の中に入ることで、さまざまな困難を乗り越えていくことが出来るでしょう。たとえばルールや規制を変更してこれまでと違ったインセンティブを与えることも必要でしょうし、政策の決定プロセスの見直しも必要になってきますし、学校教育の見直しも必要かもしれません。さらに、公共サービスの内容や技術の革新も必要です。

経済的な革新としては、新しいビジネスモデルにオープンソースというものがあります。まさにイノベーションのひとつで、協力や共有が必要です。伝統的な企業の競争ではなく、ひとつの革命と言っていいでしょう。アイデアからお金を生むことも出来ます。そのための創造的な場所は誰のためのものかと言えば、企業や技術者、官僚のためだけではなく、市民全員のものです。

## 創造都市と都市の規模

よく問われるのは、「小さなまちもクリエイティブになれるのか」「大都市だけが創造都市になれるのか」「どれほどの規模の都市が創造都市になれるのか」ということです。大都市でなければならないのかという問いに対する答えは、イエスでもありノーでもあります。小さなまちでは課題に焦点をあてやすく、一方の大都市では多様な関心を持つ人々を集められるし、資金を集めやすく文化的な投資も行われます。小さなまちの例では、数年前に訪れた大分県の別府などは非常にクリエイティブなまちだったと記憶しています。つまり、すべての人、すべての都市が規模に関わらず、今よりクリエイティブになれる。それが私の答えです。

## 創造都市は都市自体が創造的に思考する

さまざまなプロジェクトを通じて真摯に問題に直面することによって創造的環境が醸成され、それが新たな文化となって織や都市に遺伝子として組み込まれていきます。これは都市自体が創造的思考をするということで、従来の都市運営とは異なる考え方です。たとえばドバイには超高層ビルが数多く建設されましたが、こういう都市環境は創造的でしょうか。私には1930年代の映画に出てくるメトロポリスのような印象です。街中にはパブリック・アートを設置することもあります。醜いものを建てた後に別のものを建ててごまかしているとしか思えません。都市工学の専門家だけが考えてつくるところなのでしょう。

日本では今まで工業や産業部門が非常に強力で、その影響のもとに都市をつくってきたと思います。その結果、日本はすばらしい都市をつくることが出来たのでしょうか。私の考えでは、工業やハードウェアを重視する都市計画と創造都市とは相いれないものです。すばらしい都市とは、さまざまな要素が複合的に組み合わせられていること、たとえば村落共

同体のような自治やつながりの意識と、コスモポリタンのような考え方を持っているということです。

工業都市を創造都市に変えた事例は、世界各地にあります。ここで皆さんに自問自答してほしいのですが、都市で展開されている都市開発のプロジェクトは個々に行われているのか、それとも都市全体のプロジェクトになっているのでしょうか。これは非常に難しいことで 360°の発想の転換、つまり学際的な視野に立った考え方が必要になってきます。従来のような縦割りの思考では創造都市は出来ません。さまざま考え方を組み合わせること、たとえば、文化的なモノの見方や考え方は非常に重要です。これまで建設業界は何をやってきたでしょうか。建築関係者の教育コースに、文化について学ぶ機会をしっかりと組み込む必要があります。それから、縦割りの思考回路は私たち自身の中にもあるので、それを打破する試みを一人ひとりが行っていくべきでしょう。ホリスティックな思考を身につけることが重要です。

### 文化を資源として考える

もう一つ重要なことは、文化や工芸、芸術を資源として捉えるということです。そうすることによって、文化や芸術が物語を語り始め、いろいろな分野の人たちが共鳴しあい、お互いを刺激し、さらなる資源を発見し、共通の目標に向かって歩み始めます。このことは、多様な人々が参画して都市をつくっていくということであり、そのカギを握るのは文化です。文化こそが都市の DNA であり潜在力の源です。

しかし、文化は障害となる可能性も持つ両刃の剣です。「市場の見えざる手」という言葉がありますが、「文化の見えざる手」というものもあって、都市の中で神経系のように張り巡らされており、何かいいことであっても入って来るのを拒むこともあります。

### 対話する都市

私たちはハード中心の都市工学から、方向転換する必要があります。これからの都市にとって、工学の技術だけでは解決できないものがたくさんあるはずです。都市は、相互のやりとりがあるから都市であり、可能性や潜在性の具体化を加速するから都市であり、人々が物語を語り、仕事をし、一緒に物事を成し遂げるから都市なのです。つまり都市は、「対話する都市」であり、そのための場が必要です。私たちは機能的なものや技術的なものを見るだけではなく、その背景にあるものを見なくてはなりません。右脳と左脳を融合していくということです。

さらに重要なのは、見えないものを見えるようにしていくこと。つまり、創造都市をつくろうという政治的意図を物理的環境の中に活かしたり、緑の環境に配慮した美観を生み出したりするのです。代表的な例として、ソウルの清溪川（チョンゲチョン）復元事業があります。現在このようなプロジェクトが世界で 50 余り行われ、人々が出会い対話する場所が提供されるようになっていきます。そうした場所がないと創造性は育たないのです。ニ

ニューヨークでも犯罪対策の一環として、42丁目と6番街の角にある公園に2000脚の折り畳み椅子を設置しました。人々は自分の好きな場所に椅子を移動させてくつろぎ、対話を楽しんでおり、まさに都市のリビングルームとなっています。これらの例のように、都市が人々にとって身近なものになり、さまざまな年代の人々によるさまざまな活動が生まれ、異なる文化や背景をもった人とも一緒に集まって問題解決が出来る場所が都市には必要なのです。

### 人々の社会的な創造性に注目する

創造都市には創造的な産業があります。たとえばゲーム産業、デザイン産業、音楽産業などは非常に重要ですが、創造都市の全体を示すものではありません。創造都市には科学者も含めた創造的な人々が必要です。こうした階層は東京では28%、小さなまちでは20%くらいになるかと思いますが、私が関心を持っているのは残り70%の人々です。専門的な教育を受けていないかも知れませんが、社会的な創造性に注目したいのです。そのためにも行政が創造的であることが重要で、都市がきちんと機能するためにも、一般の人々が目覚ましい成果を上げるためにも、行政が創造的であるならば、その土台を提供することが出来るでしょう。それが都市の抱える問題の創造的解決につながり、閉鎖的な世界を打ち破る起爆剤になると考えています。

### 創造都市を評価するための10の指標

では、創造都市をどのように評価するのでしょうか。私は10の指標があると考えていて、それぞれを自己評価するとともに、客観的に評価することも重要です。指標の1つ目は、政治的かつ公共的な枠組みについてです。市民が創造性を発揮出来ているか、政策決定のプロセスに市民が参加出来ているか、ルールがきちんと分かりやすく説明されているのか、そのルールが新たな情勢の変化に対応しているのかなど、まさに行政組織のあり方そのものを評価することです。

2つ目は、その都市の持つバイタリティ、多様性、表現力はどうかということです。都市の独自性あるいはアイデンティティを評価することであり、都市の魂が問われていると言えるでしょう。これについては、インターネットでの調査や個人的なインタビューなどで測定出来ると思います。

3つ目は、開放性や寛容性があり、参加可能性はどうかです。新しいアイデアや異なったルールに対してどういう見方や接し方をしているか。全面的にオープンである必要はありませんが、自らの育った環境などを考慮して、見方が偏っていないか客観視することは必要でしょう。4点目は、起業家精神があるかどうかです。コミュニティの中で、公共部門と民間部門それぞれにあるか、そして時代状況の変化に対応しながら起業家精神は進化しているか。また、きちんと評価されて支援する体制が構築されているかどうかです。

5点目は、戦略的で機敏な動きが出来ているかどうか。つまり、明確なビジョンをもち、

ゴールに到達するまで柔軟かつ機敏に対応出来るかどうかです。この点で金沢市は、官民が協力してユネスコの創造都市ネットワークにクラフト分野で加盟出来ましたね。そのプロセスは非常によかったと思います。ゴールまでの道筋をきちんと分かりやすく説明し、市民の参画を促すことが出来るかが重要です。

6点目は、創造的な才能を育む学習環境についてです。図書館や大学は市民に開かれているか、特に大学はその都市の多様な部門と協力しているのか、それとも帝国のようになっていないかどうか。7点目は、コミュニケーションはどのように行われているのか。内部的にも外部的にも評価する必要がありますが、特に外部とのコミュニケーションはどうなっていて、ネットワークはどのように構築されているかが重要です。セクターを超えたつながりはあるのか、グローバルなコネクションはあるのかなどです。

8つ目は、場所をどのように生みだしているか、そのつくり方はどのような方法なのか、お互いにインスピレーションを得るやり方になっているかどうかです。9点目は居住性です。健康やレクレーションに配慮した施設はあるか、交通アクセスはいいのか、子どもたちの遊ぶ場所はあるのか、交通渋滞はどうかなどです。

最後は専門性と有効性です。皆さんは都市についてプロフェッショナルリズムを持っているのでしょうか、そしてあなた自身が創造的に考え、自分の考えを具現化する形で創造都市を生みだしているかどうか。さらに付け加えると信頼も非常に重要です。信頼があるからこそ、お互いに話し合うことが出来ます。お金ではありません。信頼によってお互いの違いを乗り越えていく。たとえ相手が好きでなくても、対話をする中で考え方を変えていくことが重要です。ほんの少しでいいんです。少しだけ考えを変えてみてください。

※注...10の評価指標については、*City, Culture and Society*, vol2, issue3（編集：大阪市立大学都市研究プラザ、発行：エルゼビア社）に「The Creative City Index」と題するランドリー氏の論文が掲載されている。

<http://www.journals.elsevier.com/city-culture-and-society/>

<http://www.sciencedirect.com/science/journal/18779166/2/3>

## 次世代のために

最後に提案があります。あなたの住む都市がどれだけ創造性を持っているか、自ら評価をしてほしいのです。はっきりしているのは、次の世代が重要だということです。次の世代をがっかりさせることは出来ません。「創造性のない都市には未来はない」ことはよく分かっているのですから、しっかりと創造都市をつくって次世代に渡そうではありませんか。

## 【特別報告】 「創造都市ネットワーク・カナダ（CCNC）の事例調査から」

野田邦弘（鳥取大学教授）

### CCNC（Creative City Network of Canada）について

カナダでは 1970 年代から、21 世紀には自治体の仕事の中で文化が最も重要になるだろうという認識が広がり、共有されるようになりました。「創造都市」という概念に一部の人々は注目したが、十分に理解されてはいなかった。そこで、創造都市というコンセプトを自治体内で理解をさせて予算を確保し、政策として推進することが必要だろうという人たちが現れます。その中で、バンクーバー市の文化部の職員が非公式のネットワークをつくろうと自治体担当者や関係者に呼びかけて、1997 年に CCNC が発足します。

最初に取り組んだのは、先行自治体の経験、成功例だけでなく失敗例や、議会での議論などを共有することによって、文化担当職員の政策形成能力向上をめざしました。事務局はバンクーバー市役所内に置いて、同市の職員が半ばボランティア的に業務を遂行していたのです。ただし、ちょうどこのとき、カナダ文化遺産省から資金援助（当初は包括補助、後にプロジェクトごとの補助）があったため、順調にスタート出来たそうです。

2002 年に NPO 化し、加盟都市から会費を徴収するようになります。会費は都市の人口に応じて 300 ドルから 4,000 ドルまでの 5 段階です。現在、加盟都市は約 120 で、カナダ全体の人口の 8 割をカバーしていますから、ほとんどの都市が入っていると断言してもいいでしょう。

具体的な活動は、ニュースレター *Creative City News* を発行し、年次大会を開催し、加盟自治体のサポートを行います。サポートのツールは主に、文化地図、文化計画、パブリック・アート実施のノウハウ提供などです。

ネットワークに加盟することのメリットは何か。まず、文化に理解のない自治体も多かったが、文化政策の重要性について広めることが出来たことです。そして、文化政策担当者の専門性を伸ばし、専門的知識の獲得に寄与したこと。さらに、市町村によって文化政策の取り組みにバラツキがあったが、ある程度それを平準化出来たこと。たとえば小規模自治体がパブリック・アートに取り組むことになったとき、その自治体職員は誰も知識をもっていなかったので、CCNC のウェブサイトで質問したら、十数人から回答をもらい、とても助かったという事例もあります。

私たちが訪問した際も、3 都市の担当者に CCNC 加盟のメリットについて伺うと、①文化担当職員間のネットワーク形成（国中に同じ分野の仲間がいることで自分の仕事に自信を持てる。自治体の規模にかかわらず悩み事や疑問、成功事例も失敗事例も共有することで同じ失敗を繰り返さないで済む）、②都市間の共同調査プロジェクト実施、③文化政策の水準の向上（職員の専門性の高まりも含む）、④新たな文化政策立案に役立つ、⑤大学との連携（ブリティッシュ・コロンビア大学と連携。大学にキーパーソンがいることは必須）、

という 5 つが挙げられました。

次に、私たちが訪れた 3 都市の概要と取り組みについて報告します。

### バンクーバー市の事例

バンクーバー市の人口は約 58 万人、グレーターバンクーバーという大都市圏では 210 万人です。アート関係者の人口比率が国内で一番高く、増加率も高いです。移住してくるアーティストが多く、聴衆のレベルも高いそうです。一人あたりの文化助成金額はカナダで一番高く、文化予算の市全体予算に占める割合は 1%前後。文化予算額ではモンリオールの次で、連邦政府や州政府よりも高いです。

バンクーバー市の強みは、これまでの文化活動の伝統に加えて、成功したアーティストがたくさん住んでいること、文化機関や教育機関が充実していること。さらに移民が人口の半分近くを占め、文化多様性に富んでいるために芸術活動を活性化しています。

一方の課題は、人口増による開発ラッシュで生活費が高騰しているためにアーティストが暮らしにくくなっていること。そして、文化施設の老朽化で改修経費がかかること。アメリカのように個人が寄付をするという風習があまりないので、資金調達は困難に直面しているそうです。

### ニューウエスト・ミンスター市の事例

次に、ニューウエスト・ミンスター市という人口 5 万 8,000 人の都市を訪問しました。ここはヘルスケア、小売業、教育などが雇用先として目だっていますが、2000 年以後はハイテクや光ファイバーに関する産業が伸びています。最近では芸術や文化が新しい強みになっていて、アーティストの人口比率は国内で第 9 位だそうです。2008 年から文化政策を本格化させて“Art Strategy”を策定し、2010 年にアート部門の専門職を配置しています。

### トロント市の事例

最後にカナダ最大の都市トロントを訪問しました。人口は 250 万人、大都市圏まで入れると 590 万人です。カナダ最大の金融センターもあります。

2000 年に *Culture Plan For the Creative City 2003* というドキュメントを作り始めるのですが、その背景にはアメリカとの自由貿易協定 (NAFTA) の締結がもたらした影響があります。どういうことかと言うと、協定締結後、1990 年代にトロントは大きな不景気を経験します。市内から工場が流出し、新しい産業は金融や観光になっていきますが、観光振興には文化芸術資源が重要であるという認識に至り、文化政策の充実はこのドキュメントはとても役だったそうです。

そして、ロイヤルオンタリオ博物館やロイヤルコンサバトリーミュージック、ガードナー美術館、オペラハウス、アートギャラリー、ナショナルバレースクールなどが 10 年間で整備・改修されます。これらの施設整備には、トロント市からの出資はなく、連邦政府や



州、民間の資金で賄ったそうです。運営費はトロント市が負担しています。

### **まとめとして**

これは私の個人的考えですが、日本でネットワークをつくっていく場合は個別政策としての文化政策担当者の集まりではなくて、都市政策全体を見渡す総合政策として考えていく必要があると思います。ですから、担当窓口も文化部門だけではなくて、政策企画部門や経済部門、あるいは都市計画なども想定されるでしょう。そういう多様性というか広がりが必要だと思います。

## 【ラウンドテーブル討論】 「我が国における創造都市ネットワークの役割」

モデレーター：佐々木雅幸

○佐々木 まず、参加者からの質問を紹介します。ランドリーさんへの質問に、「創造都市について中央政府は支援すべきか」「どのように創造都市を進めたらいいか」というのがあります。海外の事例なども含めてお答えください。

○ランドリー 創造都市になるためには独自性や独立性が必要ですから、自治体に権限を与えるべきです。中央政府は各自治体のことを十分に理解していませんし、創造都市をつくるために必要なエネルギーはそれぞれの自治体を持っているのです。ですから、中央政府がすべきことは権限の移譲、少なくとも邪魔をしないことです。

そして、どのように進めるかということについては、ここ 30 年近く行われている欧州文化都市 European City of Culture が参考になるでしょう。事業が始まった 1985 年にアテネが選ばれ、最初の頃はパリやフィレンツェなど「我こそは文化都市」というような都市ばかり選ばれていましたが、1990 年にイギリスのグラスゴーが選ばれました。ロンドンではなかったことが驚きでした。やがて人口 50 万から 80 万人の都市が選ばれるようになり 2014 年には人口約 11 万人のウメオというスウェーデンの都市が選ばれています。中小の都市が選ばれると規模が小さいだけに、人々がまとまって将来のことを考えるようになり、その中で文化的な物語を紡ぎだします。将来像を共有するようになっていくのです。中小規模の都市が選定を目指して戦略的にこうした制度を使うことは、市民を巻き込んでいく意味でも非常に重要だと思います。



○佐々木 残りの質問をまとめてみると、まず、「創造都市にとってメディアが果たす役割は何か」。それから「創造都市には消費者の役割も重要だと思われるが、クリエイティブな活動を促進するような消費者をどのように育てるか」という質問があります。この 2 点についてランドリーさんお願いします。

○ランドリー 一般論ですが、メディアがしっかりと創造都市のアイデアを支えてくれることが非常に重要です。単にすばらしいと書くだけでなく、具体的にどの部分がすばらしく、課題は何かということも伝えてほしい。また、ひとつのメディアの評価だけだと視野が狭くなって、問題を引き起こすこともありますから、できるだけ多くのメディアに入ってもらい多様な捉え方を報道してもらうことが重要です。今台頭しているソーシャルメディアは、創造都市にとって欠くべからざる重要な要素になるでしょう。なぜなら、つなげる力、接続性があるからです。ツイッターやフェイスブック、ブログなどを使って創造

都市を外部と接続する。そこから対話の文化も生まれてくる。これは創造都市にとって本当に根幹的な要素であり、新たなアイデアも生まれるでしょう。

クリエイティブな消費者について、これはサイクルだと思います。まずアイデアがあって、何らかのコミュニケーション方法で伝えて、それを受け入れる人が新しいアイデアを生み出す。そういうサイクルが円滑に生み出されるためにオープンな議論の場や環境をつくっていくのです。お互いにいろいろな意見を共有し、自由に対話し、考えを実際の行動に移していく。それが受け身ではない、クリエイティブな消費者を育てるために必要です。先ほどソーシャルメディアの話をしました、そういうものを使ってつながりが生まれると、それがやがて創造都市になっていきます。

○佐々木 「小規模の都市でも創造都市になりえるか」ということについて、横浜と鳥取でのご経験をお持ちの野田さんからお話してください。

○野田 鳥取県の人口が 59 万人ですから、鳥取県が 6 つでやっとな横浜市になるという人口規模の差があります。しかし今後、地方分権が進めば、創造都市になることと都市の規模は関係なくなるでしょう。むしろ意思決定が早くて小回りがききます。プロジェクトの規模は小さくても取り組みやすいという利点があり、このことを私は鳥取で実感しています。都市は大きい方がいいというのは 20 世紀型の発想で、知識経済社会になる 21 世紀には都市の規模は関係がなく、重要なのはアイデアです。

○ランドリー 創造性というのは、グローバル競争の分野で見ると違うダイナミズムがあります。小規模の都市は大都市と同じようなことは出来ませんが、独自の創造性は発揮することが出来ます。さらに創造都市のロジックは、どこでも適用可能です。なぜなら、創造都市は一つのプロセスであり、重要なことは人々に力や権限を与えて、それぞれのアイデアを活かせるようにすることです。これは小規模の都市、村でも可能でしょう。

○佐々木 討論の後半ではネットワークをどう進めるかについて議論を進めていきたいと思っています。それでは、ランドリーさんからも紹介された別府市の山出さん、よろしくお願ひします。

○山出淳也 (NPO 法人 BEPPU PROJECT 代表理事) 私たちの NPO 法人 BEPPU PROJECT という組織が中核になって実行委員会をつくり現代芸術フェスティバルを展開しています。別府市は人口が約 12 万人の小さな都市ですが、市民の側から創造都市をつくらうという動きが始まりました。大分県のご理解が進んでいて、この 2 月 19 日には「国東半島芸術会議」を開催しますし、今年秋からは 2 回目の「混浴温泉世界」という芸術祭を開催する予定、さらに平成 25 年には大分県立美術館が設立されるという流れの中で、県下のさまざまな都市をネットワークしていこうと構想しています。地元の別府市にもしっかりとご理解いただき、市民の方々とも議論を重ねながら目指すべき都市をつくっていききたいと思っています。推進力としての市民の力はまだまだ弱いですが、情熱だけはしっかり持

っております。私たちは 2005 年に活動を開始して以来、2007 年 10 月に国際シンポジウムを開催してランドリーさんにもお越しいただくなど、継続して創造都市について考えていく機会を設けています。

○佐々木 市民の側から創造都市をつくろうという動きがあるということですが、私はそれが一番大事なことであり、創造都市の原点だと思います。では、昨年秋に創造農村ワークショップを開催された秋田県の仙北市からお話いただけますか。

○是永幹夫（「文化芸術創造都市モデル事業」仙北実行委員会事務局長） 仙北市は文化庁の文化芸術創造都市モデル事業を推進しています。仙北市には角館という東北有数の観光地があり、武家屋敷で有名ですが蔵も 101 あります。そこでモデル事業は、伝統の中に新しい文化も組み入れて、蔵とアートをめぐるネオ・クラシックなど、さまざまな取り組みを行っています。フィルムコミッションの全国総会の第 2 回目も開催されましたし、新潮社の創設者の出身地であるなど出版文化も豊かなところですよ。

日本はこれまで大都市中心のまちづくりが行われてきましたが、それでいいんだろうかという疑問が私にはずっとありました。とくに 3.11 以降、大都市だけではうまくいかないと痛切に感じています。仙北市もすでに取り組み始めていますが、大都市と中都市、小都市が一緒になってネットワークをつくっていくことの大事さを強く感じています。

○佐々木 農村でも創造的な取り組みをしていけば「創造農村」と言えるのではないかと。そういうことを考えるきっかけを与えていただいたのが長野県の本曾町です。本曾町の田中町長さんは創造農村の先駆者ですのでぜひお話を伺いたいのですが。

○田中勝巳（本曾町長） 10 年ほど前に佐々木先生の本を読んで感動し、先生には本曾町へも来ていただきました。創造都市という考え方こそ、日本社会に新しい未来を拓く理論だと思いました。都市はもちろん、農村もクリエイティブな農村づくりをしないと未来はないと非常に強く感じています。本曾町は人口が 1 万 2000 人の非常に小さな町ですが、この 10 年間、創造的な地域づくりとは



何かを考えて試行錯誤しながらやってきました。行政システムもおそらく、他には例のないシステムをつくりまして、全国からたくさんの方が視察や調査に来られます。うまくいっているものもあれば、そうではないものもありますが、私が痛感しているのは、行政や一部の人が考えているだけでは成功しないということです。やはり町民の多数が「これこそが新しい日本の未来を拓いていく理論だ」と理解するようにならないとうまくいかないのです。

私は今の日本、特に TPP への対応などを見ていますと、このままでは日本の農村は本当に大変なことになると心配しています。一昨日もテレビで長野県の栄村の除雪での事故が報道されていました。65%以上がお年寄りです。本当にぞっとしますが、こういう状況が日本の山村に広がっています。皆さん、このままで日本は持続可能だと思います。

われますか。私は都市だけで日本が生き残っていくなてことは絶対に出来ないと思います。農村も都市もそれぞれの役割を十全に機能させてこそ、この日本という国が成り立つのではないのでしょうか。

○佐々木 木曾町は「日本で最も美しい村連合」にも加盟して頑張っておられ、私はこの運動からも学ぶものは多いと思っています。特に農村景観は日本の社会が持っている非常に大きな文化資産ですね。金沢や京都など都市の文化景観も大切ですが、日本の原風景は農村であって、その農村景観を守ろうとネットワークを組んで頑張っておられることは非常に意義深い。では次に、北海道の東川町からお願いします。

○東川町 東川町は旭川空港から車で10分ほど、ちょうど北海道の真ん中に位置する町です。1985年に条例をつくって「写真の町宣言」をして、写真を文化の核としてまちづくりを行っています。平成22年3月に文化庁長官表彰をいただきました。「写真の町」というのは最初、民間企業が提案したのですが、今では住民が主体的に取り組むように変化してきました。その中でも「写真甲子園」と言われる全国高等学校写真選手権大会は18年続いていて、今年は19回目になります。昨年10月に創造農村ワークショップに参加させていただいて、我々のように写真を中心にしたまちづくりもあれば、食文化を中心にしたまちづくりもあり、さまざまな取り組みがあるなど改めて感じました。写真を核にしているのは相模原市もそうですし、全国のそういう自治体が横の連携を図りながら写真文化への貢献をしていきたいし、創造都市ネットワーク会議にも参加させてほしいと考えています。

○佐々木 それぞれ独自の取り組みをされていますね。では、現代アートによって非常にインパクトのある取り組みされている中之条町の前町長の入内島さん、よろしくお願ひします。

○入内島道隆（中之条町 前町長） 温泉と故郷とアートの祭典として位置づけた「中之条ビエンナーレ」を過去3回、2007年と2009年、2011年に開催しました。初回の予算は300万円で最後の2011年は約2000万円の予算でした。3回の来場者数は延べで35万人だったので費用対効果は一番高いのではないかと思います。現代アートの作品は田舎の風景を照射し、その田舎の風景が作品を照らし出すのです。そうした魅力によって多くの方に来ていただけたのでしょうか。

しかし、こうした活動が町全体で理解されているかという点、そうでもありません。「クリエイティブで町を活性化させたい、クリエイティブな空間に人々が集まる時代になっていますよ」と言っても、なかなか理解されません。ですから、今日のような会議を契機にネットワークを立ち上げていただいて、外から情報を発信していただくと、中之条の人たちに「そういう流れがあるのか」と理解をしてもらえんと思います。

○佐々木 ビエンナーレの実行委員長をされている桑原さんから何か。

○桑原かよ（中之条ビエンナーレ実行委員長） 中之条ビエンナーレはもともと、クリエイターやアーティスト主導で始まったのですが、今では私のような地元の者も実行委員

会に参画して一緒にやっています。中之条町は人口 1 万 8000 人の小さな町で若者が非常に少ない。実行委員会 15 名のうち町に住んでいるのは約半数ですから行政にも力を借りながら運営しています。一緒に活動してくれる仲間を増やそうとするとときに、外から評価を受けているのは非常に励みになりますし、ネットワークが構築されれば、同じ悩みを持つ方々と話し合ううちに、解決のヒントも得られるのではと思います。

○佐々木　そうですね。成功体験を共有するだけではなく、課題を持ち寄って解決していく知恵を出し合うことも重要ですね。それでは次に、第 2 回の創造農村ワークショップをやろうという意気込みを示していただいている篠山市さんお願いいたします。

○篠山市　先ほど、ランドリーさんから創造的な都市でなければ衰退するしかないというショッキングなお話を聞いたのですが、考えてみますと私どものような小さな都市では当たり前のことかなと感じています。まちづくりのすべての分野において創造的な取り組みをしないと生き残っていけないのではないかと、そういう危機感を持っています。

篠山市は黒豆など、農産物が非常に有名なので食文化のブランド化に取り組んだり、景観法に基づく景観行政団体になったり、地元の一般社団法人ノオトと一緒に古民家の再生に取り組んだりしています。来年度は市内で 2 番目の重要伝統的建造物群保存地区の指定を受けられるように取り組んでいるところです。

私たち農村地域に住んでいる者にとって文化とは何だろうと突きつめて考えると、自分たちの生活や暮らしそのものが文化につながっていくのではないかなと考えています。創造農村ワークショップを今年は篠山市で開催したいと手を挙げていますので、開催が確定し日程などが決まりましたら、ぜひお越しいただき、創造的アイデアの交換をさせてください。

○佐々木　昨年（平成 23 年）は 7 月から 11 月にかけて全国を 7 地区に分けたブロック会議を開催し、58 自治体と NPO に参加いただきました。文化庁からの呼びかけということで文化政策の担当者が多かったのですが、政策企画や産業と文化、観光と文化など横断的なセクションの方々に参加いただいたところもあります。

ネットワークへの参加については、財政難でお金や人は出せないけれど情報だけはほしいという面も確かにあると思います。そういう状況下にあっても、人口 40～50 万人、さらには 100 万人を超える大都市が創造都市のムーブメントを牽引してきたわけです。これらの都市にはユネスコのネットワークに加盟している、あるいは加盟をしようとしている都市もありますので、このあたりのお話もいただけたらと思います。浜松市の鈴木市長さんお願いいたします。

○鈴木康友（浜松市長）　浜松は音楽の分野にこだわった創造都市への取り組みをしています。ヤマハさんやカワイさん、ローランドさんという世界の三大楽器メーカーがすべて浜松市に



本社を置いて活動されており、おそらく世界で一番楽器産業の集積した都市と言えるだろうと思うのです。単に、すぐれたモノづくりの成果として楽器を捉えるのではなく、先々代の市長のときから「楽器のまちから音楽のまちへ」というコンセプトでさまざまな音楽活動に取り組んでまいりました。たとえば「浜松国際ピアノコンクール」は世界でも評価され、若手ピアニストの登竜門になっています。他にもピアニスト育成として「浜松国際ピアノアカデミー」が、若手音楽家育成と市民が楽しめるフェスティバルを組み合わせた「浜松国際管楽器アカデミー&フェスティバル」などもあります。

その中で、私が市長になったときに感じたのは、まだまだ市民の皆さんと意識の乖離があるので、何か芯を通す必要があるなということでした。そのときに創造都市という概念に出会ったのです。その瞬間に、「これだ！」と思ったのですね。

浜松市は現在ユネスコの世界創造都市ネットワークに音楽部門での加盟を目指して取り組んでおります。これを起爆剤として市民から沸き起こってくるような音楽文化への取り組みを期待しています。実は、すでに行政とは関係なく市民の方々が実行委員会をつくって「やらまいかミュージックフェスティバル」という音楽イベントがかなり大きく広がってきています。また、浜松市は政令指定都市といっても12市町村の合併で、過疎が4地域あって、いわゆる限界集落が110もあります。おそらく全国で一番多く限界集落を持つ都市だと思います。ところが、そういうところは民俗芸能の宝庫で、田楽なども盛んだったのです。合併を契機に都市の力でいろんな文化を保存継承し発展していけるのではないかと考えています。

都市間のネットワークで情報交換をしたり、お互いに切磋琢磨することの重要性は認識しております。創造都市ネットワークに貢献できるよう、我々も汗をかく覚悟ですので、よろしくお願いします。

**○佐々木** 昨年11月に浜松市は世界創造都市フォーラムを開催され、用意していた同時通訳のレシーバーが足りなくなるほどの盛況でした。ただ、ユネスコについては、アメリカが分担金を払わなくなって財政的にピンチに陥り、その影響でユネスコ・ネットワーク加盟の審査がストップしています。これは一都市での働きかけではどうにもならないので、加盟都市が連携しながら積極的に働きかける必要があると思っています。

ユネスコの問題もそうですが、3.11で東北の伝統芸能が消滅の危機にあります。創造都市ネットワークでも東北支援のあり方は大きなテーマだと思っています。この点で可児市の富田市長さんお話し願えますか。

**○富田成輝（可児市長）** 可児市には「文化創造センターala（アラ）」があり積極的な取り組みをしています。ここでは、外部から有名人を呼んでくるのではなく、芸術家と市民が一緒になって中身をつくり全国に発信するという取り組みをやっています。この文化芸術を中心にした活動はとても広がっていて、このことは3.11



のボランティア活動でもわかりました。どういうことかと言うと、可児市は人口 10 万人の都市ですがボランティアの数も救援物資も義捐金も 40 万人規模の市と同じくらい集まったのです。アーラを中心とした活動から、さまざまな市民活動の分野にネットワークが広がっていて、すごいスピードで協力体制が出来ました。文化芸術を基盤に、子どもたちを地域で支える・育てる仕組みづくり、あるいは高齢者を支える仕組みづくりなどに発展していくのです。文化芸術にはそういうものを創造する力があるということを感じていますから、このネットワーク会議には、改めて政策推進の理論的支柱を勉強したいと思って参加しました。

**○佐々木** アーラに訪れる利用者は年間約 30 万人で、可児市の人口の 3 倍にもなっており、中核的な拠点文化施設として市民の対話の場になっています。文化創造の場であり、対話の場でもあるという拠点的な施設の役割はとても大事ですね。

そこで、文化芸術創造の場づくりを応援されている財団法人地域創造の方も何かお話しいただけますか。

**○財団法人地域創造** 私どもはアーティスト派遣や美術展の巡回展などの事業を各自治体と協働で行っています。すでにいろいろなノウハウを持っておられる美術館やホールではなくて、まだそれほど事業をやっておられない自治体と一緒に、新しく事業をつくっていかうとしているので、関心のある方はぜひ声をかけてください。

**○佐々木** 続いて経済産業省の方もお願いします。

**○経済産業省クリエイティブ産業課** 経済産業省でも創造都市を各地につくっていきたいと考え、佐々木先生に座長をお願いして研究会を開催しています。創造都市に必要な要素としてクリエイティブな才能を持った人や地域資源、自然景観などありますが、これらを外部の人材や企業に結びつけていくことが課題だと思っています。そして新しい産業や付加価値の高い商品をつくって、それを観光とも結びつける取り組みを進めていきたいと考えています。今日ご参加の皆さんとも連携していきたいので、よろしくお願いします。

**○佐々木** 国の関係省庁も創造都市に関心をもっていただけるようになり、文化施設のソフト支援や産業面からの支援など、少しずつ状況は改善されています。ただ、もう少し予算を増やしてほしいですね。

ところで、高松市が新たに創造都市推進局を設置されるそうで驚いたのですが、何かお話し願えますか。

**○高松市** 高松市はかつて支店経済の中心として栄えたのですが、情報通信や交通手段の発達で残念ながら活気がなくなりつつあります。今後、少子高齢化が進む中でどうやってまちの活気を取り戻すかと考え、今年 4 月に創造都市推進局という組織をつくることになりました。

一昨年、直島を中心に瀬戸内国際芸術祭が開催されました。高松市にある人口 180 人くらいの男木島、女木島という小島に期間中、10 万もの人々が来てくださったのです。また、高松市には浜野年宏さんというユネスコで個展を開くなど海外でも著名な日本画家がお住



まいですし、盆栽や石の産地としても知られています。このように素材は豊富でも、PRがうまく出来ていなかったのです。

そこで創造都市推進局を設置して、文化芸術やスポーツ、地場産品である盆栽や石なども広く発信して地域の活性化を図ろうとしています。文化振興条例も制定して、すぐれた文化芸術があることを市民に認識していただき、さらに誇りをもってもらえるように取り組んでいくつもりです。先進的に取り組んでおられる自治体にも学びたいと考えているので、よろしくお願いします。

**○札幌市** 札幌は2006年3月に「創造都市さっぽろ (sapporo ideas city) 宣言」を行っています。それ以降、さまざまな取組を行っておりますが、ランドリーさんのお話にあったように、まず市役所自身が創造的でなければならない、私自身も含めて意識改革が必要だと痛感したところです。札幌市はメディアアートの分野でユネスコ・ネットワークへの加盟を目指していて、それを市民はもちろん市役所内部で理解してもらう上で非常に参考になったのは、昨年11月にソウルで開催されたユネスコ創造都市ネットワーク会議に新潟市や浜松市の方々と一緒に参加させていただいたことです。担当者同士の情報交換はもちろん、3市長のつながりもできて、今後大きな意味を持つてくると思います。また、ソウルの会議では、上田市長がユネスコのネットワーク加盟を目指すというプレゼンテーションを行い、評価をいただくこともできました。

ランドリーさんと佐々木先生には明日から札幌へ来ていただき、国際セミナーを開催します。創造都市を推進する産学官の実行委員メンバーにも刺激を与えていただいて、今後さらにステップアップしたいと思っています。

**○新潟市** 私どもの特色は文化創造都市の取り組みを行うセクションと地方分権を担当しているセクションとが一つの組織として推進していることです。また、住民参画のために情報公開にも早くから取り組んだり、歴史的建造物を保存・活用することにも取り組んでまいりました。あえて「創造都市」という看板を掲げなくても、この概念に合致することを実践してきたと思っています。

ユネスコに関して申し上げますと、皆さんよくご存じのように、新潟は米や酒など、おいしいものがたくさんあるので、食文化の分野での取り組みを進めています。

**○神戸市** 神戸はユネスコのネットワークに加盟してこの10月で丸4年を迎えます。加盟したメリットは、やはり発信力だと思います。ユネスコのロゴマークと神戸市のロゴマークを組み合わせるため、「デザイン都市・神戸」の認知度を高めるのにかなり効果があったと思います。市民の方だけでなく外部の方がロゴマークを見たとき、「これは何を意味しているんですか？」と質問され、そこから創造都市のことや神戸市が選定された理由などを説明することが出来ました。ユネスコという世界的かつ公的な機関の名前を使いながら発信出来たのは良かったですね。

それから、国内外のネットワークの力が 있습니다。ユネスコ・ネットワークの加盟都市は29あり（※2012年3月に30都市となった）、そのうち10都市がデザイン都市です。この10

都市で 2 年前から共同の取り組みを行うことになり、ポスターのコンペティションを一緒に実施しています。このような共同事業や人材の交流が海外の都市と行えることが、大きなメリットだと言えるでしょう。

一方の課題は、こうした創造都市の取り組みが実際の暮らしにどのように役立つのか、市民に十分発信出来ていないことだと感じています。行政が税金を使ってやる以上、何らかの具体的な成果を示していく必要を感じています。

今後、国内で創造都市のネットワークが出来れば、人材や情報の交流、課題の解決に向け切磋琢磨することが出来て大きな意義があると思います。

**○仙北市** 昨年 10 月に第 1 回の創造農村ワークショップを開催し、文化庁の近藤長官にも基調講演をしていただきました。私どものような農村地域でも創造的なまちづくりが出来るのだと、参加した市民も目からウロコが落ちたようでした。仙北市は合併して人口 3 万人になりました。今の門脇市長は市を、江戸時代からの 9 つの集落に分けて 500 万円ずつ交付して「地域で知恵を出し合って、何かやりなさい」と提案したのです。すると、「柿漬けを復活させよう」「廃れてしまった踊りを再生しよう」「室町時代の城跡を公園化しよう」など、次から次へと地域文化を再生しようというクリエイティブな声が市民から出て来たのです。今度は皆さまからのお知恵や情報もいただいて、創造的まちづくりにますます頑張っていきたいと思っています。

**○鶴岡市** 私どもは食文化分野でのユネスコのネットワーク加盟を目指しています。出羽三山（羽黒山・月山・湯殿山）と深くかかわる精進料理など、豊かな食文化があります。昨年 11 月にはパリで、出羽三山の山伏による勸進や地元の食材を用いた精進料理のデモンストラーションを行いました。今後は食文化を核に、産業や観光分野とも連携させて事業を展開したいと考えています。

**○横浜市** 創造都市は都市の政策だと捉えています。都市というのは、新しい文化や産業が生まれるような都市政策をしないと衰退していくのではないかと。横浜は大都市ですが、それでも大企業だけでまちをつくっていくのではなくて、中小企業や個人、アーティストやクリエイターがどう新しいものを生み出していくかが大切でしょう。都市は小さな新しいものを生み出さないと、次の大きなものが生まれません。しかも古い歴史的なものの中に新しいものが加わることによって、次から次に化学反応が起こっていくと考えています。

横浜市はこれまで現場重視というか、トリエンナーレを実施するにも地元の NPO や市民を巻き込まないと意味がないと考えて一生懸命だったため、ユネスコのネットワーク加盟に取り組んでこなかったという状況があります。しかし、ネットワークを拒んでいるわけではありません。横浜のノウハウを皆さんにどしどし提供して議論したいですし、皆さんの経験を横浜なりに勉強させていただきたいです。何らかの役割をネットワークの中で果たしていきたいとも考えているので、よろしくお願いします。

**○金沢市** 国内のネットワークが立ち上がれば、金沢市はこれまでの経験やノウハウを活かしながら積極的に関わっていきたいと考えています。金沢市の取り組みの特徴を紹介

させていただくと、ひとつは組織体制です。金沢市は都市政策局の中で、まちづくり全般の企画、情報政策、交通政策、歴史遺産、さらには教育委員会の文化財行政も取り込んで、すべてを都市政策として展開しています。もちろん、創造都市の取り組みも行っているの  
で、非常に分野横断的なまちづくりが可能になっています。

もうひとつは、2005年に施行された改正文化財保護法によって、重要文化的景観という画期的な文化財保護制度が出来ました。何が画期的かという、景観法や建築基準法などの規制のツールを持っていることです。この重要文化的景観に金沢市は、近代的な都市域としてはおそらく先駆的に、旧城下の中心部分が選定されました。こういうツールもうまく使いこなして、まちづくりを進めていきたいと思っています。

○佐々木 先ほど話された、昨年11月のソウルでのユネスコの会議で、金沢市は「2015年にぜひ金沢市で開催したい」と提案されました。もしこれが決まれば、皆さまの力をお借りしたい、ネットワークによって成功させたいと金沢の山野市長から伝言を依頼されていますので、付け加えさせていただきます。

では最後に、ランドリーさんと近藤長官から一言ずつお願いします。

○ランドリー 私は創造都市ネットワーク日本が設立されることを期待しておりますし、非常に興味を持っています。そして、皆さん自身が自己評価することがとても重要だと考えています。自分たちがどれだけクリエイティブであるかということ国内の創造都市と比較することで自分たちの取り組みを見直すことも出来ますし、アジアや世界のプロジェクトとも比較することが可能になります。

○近藤 日本は近代化の過程で常にモデルがあって、それを追いかけてきました。しかし、今はモデルのない時代です。自分たち自身で独自のスタイルをつくる時代に来ていると思いますし、創造都市になるとはまさにそういうことでしょう。自分たちの特徴を活かしてまちをつくっていく。そして成功も失敗も共有していく、そのためのネットワークなのです。このネットワークをどんどん広げていって、まだまだ首をかしげている人を説得することが、皆さんの大切な役割のひとつだと思います。このネットワークがますます発展することを祈念しております。

○佐々木 ではここで、この会議の成果を皆さんの合意として今後へつなげていくために、アジェンダを提案させていただきます。

\*\*\*\*\*

## 創造都市ネットワーク日本（仮称）の設立に向けて

世界的な金融危機の連鎖と未曾有の大震災の中で、閉塞感の漂う日本社会を創造的に復興・再生することが、今、緊急に求められている。

こうした中で、文化芸術の持つ創造性を、新産業の創生や雇用創出、教育改革など多面的に活かした都市と田園再生の試み、すなわち、創造都市や創造農村をめざす多様な取り組みが着実に広がり、全国的な連携に向けて大きく動き始めている。

一方、目を世界に転じると、ユネスコが提唱した創造都市ネットワークが欧州、北米から、アジアに広がりを見せており、多様な文化創造産業の振興により、人間発達と社会包摂をめざした都市のグローバルな連携が広がっている。

これらの国内外の創造都市に向かう流れを、より広く、より大きくしていくために相互の交流・連携を促進するプラットフォームとして、以下の内容から成る「創造都市ネットワーク日本（仮称）」の設立が緊要となっている。

1. 創造都市ネットワーク日本（仮称）は、創造都市をめざして、NPO や経済団体、専門家、市民と連携した取り組みを進める自治体が基本的な構成員となり、創造都市サミット（首長会合）やネットワーク会議等を開催する。
2. 創造都市の持続的展開にとって重要となる、自治体職員や NPO などの担い手の研修や人材育成、更には国内外の創造都市政策に関する情報収集や調査研究を行い、新たに取り組みを始める自治体に対する支援を行う。
3. 海外の創造都市との交流や、ユネスコなど国際的ネットワークとの連携を積極的に推し進め、とりわけ、平和で共生的な東アジアにおける創造都市の連携に貢献する。

本会議に参加した私たちは、早期の「創造都市ネットワーク日本（仮称）」設立に心から賛同し、積極的な参画を決意するものである。

2012年2月4日

創造都市ネットワーク会議参加者一同

\*\*\*\*\*

○佐々木 ご賛同いただける方は拍手をお願いします。（拍手）ありがとうございます。採択されましたので、引き続き「創造都市ネットワーク日本（仮称）」設立と、そしてその後の活動へもご協力をお願いいたします。

（敬称略、文責編集者）

創造都市ネットワーク会議：平成24年2月4日開催

アンケート集計結果(回答者:45名)

～集計表～

1. 会議の認知経路(複数回答)

項目	回答数	回答率
①ホームページ	4	8.9%
②メールニュース	16	35.6%
③文化庁月報	0	0.0%
④チラシ	0	0.0%
⑤知人・友人からの紹介	8	17.8%
⑥勤務先・活動先の紹介	10	22.2%
⑦その他	10	22.2%
無回答	2	4.4%
合計	45	100.0%

3. 会議運営の評価

項目	回答数	回答率
①非常に良かった	6	13.3%
②良かった	31	68.9%
③あまり良くなかった	4	8.9%
④非常に良くなかった	0	0.0%
無回答	4	8.9%
合計	45	100.0%

2. 内容の評価

(1)基調講演

項目	回答数	回答率
①非常に良かった	29	64.4%
②良かった	16	35.6%
③あまり良くなかった	0	0.0%
④非常に良くなかった	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	45	100.0%

5. 自由記述

項目	回答数	回答率
回答あり	24	53.3%
無回答	21	46.7%
合計	45	100.0%

(2)ラウンドテーブル討論

項目	回答数	回答率
①非常に良かった	9	20.0%
②良かった	29	64.4%
③あまり良くなかった	4	8.9%
④非常に良くなかった	0	0.0%
無回答	3	6.7%
合計	45	100.0%

## ～回答の理由、自由記述等～

### 2. 内容の評価

#### (1) 基調講演

##### ①非常に良かった

ランドリーさんの発表が聞けた

5年前に拝聴した講演とは、また違った視点が加わった

キーワードと事例紹介、プレゼンの大きな文字が見やすかったが、資料がほしかった

別府について語られていた

多くの話が短時間の中につまみついて、まだ理解は充分ではありませんが、しっかり振り返ってみたいと思います

基本的な考え方がよく理解できた

次世代につなぐという目標を明確に示してもらった

固定観念を打破し、少しでもよいのでもの見方を変えていくという点が印象的だった。パワーポイントの画像がとてもユニークだった。

内容も革新的で面白かったが、パワポの構成もとても面白く、パワポを見ているだけでも楽しめた。

エキスが集約されていたため

実際に都市を考えていく上での考え方の参考になった。とくに「都市が人々を呼び込む時代となった」という点は真摯に受け止めなければいけない点だと思う。

創造性に必要なポイントと創造都市をつくる上での重要なポイント、ヒントが多くあった。

##### ②良かった

ランドリーさんのマシンガンのような矢継ぎ早の明確な言葉で、「創造都市」のイメージがはっきりしてきた

事例がわかりやすかった

基礎知識の不足を思い知った

世界の方向がよくわかった

最近の情報がわかったから

#### (2) ラウンドテーブル討論

##### ①非常に良かった

小規模都市での可能性について希望が持てた。

一方的でなく様々な都市のPRも含めて多くの人の話が聞けたのがよかった。

創造するために広く市民に参加してもらい、意見を充分交換して、夢を実現していくというプロセス(ランドリー氏の意見)が興味深かった。

##### ②良かった

いろいろな事例を知ることができたが、自慢大会になったような気もする。共通の課題解決ができれば…。

いろんな都市の取組を聞くことができたから。

各団体の取組を知ることができ、有意義であった。

他都市の取組を知る機会となった。

各自治体の方々からランドリー氏への質問があると良かった。

先行都市の経験、考え方を聞くことができた。

いろいろな事例を得た。相互の意見交換的な時間ほしい。

メディアの役割、creativeな消費者についての話が面白かった。

##### ③あまり良くなかった

行政からのPR大会のようでした。

論点がよくわからなかった。

論点が定まらず、分散的だったので。経済界・企業の人参加があつてよかった。

事例を挙げたお話は興味深かったが、少しばかり抽象的でわかりにくかった。より具体的なお話が聴きたいと思った。

### 3. 会議運営の評価

##### ①非常に良かった

いろいろな方の多様なお話を伺うことができました

丁寧な対応で良かったと思う。

<b>②良かった</b>
話しやすい雰囲気
よかったが、やはりわかりにくかった
他都市の現状も討論で知ることができ、参考になった。
<b>③あまり良くなかった</b>
休憩が短く、間に合わなかった
入り口が外からわかりにくかったので、看板を出してほしい
ラウンドテーブルが少し冗長だった
<b>5. 自由記述</b>
創造都市は純粋芸術文化の振興というより、文化と産業・観光・まちづくりをつなぐものだと考えられる。具体的なプロジェクトの成功は常に予算に見合ったか問われる場合が多いので、それに比べられるような費用対効果を表す指標等が必要だと思う。そうでないと、議会等の理解が得られず、ボシャってしまう恐れがある。
引き続きよろしくお願いします。
経済や文化の中心地でもなく、観光資源もない都市において、文化芸術を基軸に雇用を創造する、あるいは経済の活性化につなげるヒントがあれば。
創造都市論で展開していくには、工業や商業の衰退がダイナミックな形で変わっていく可能性の場合は有効に思うが、穏やかな衰退で下降しているのがわからないゆるやかな場合、コンセンサスが取りにくい状況がある。福岡は一見、元気な街に見えるが、現状はこのような中にある。このネットワーク会議を通して、「都市の危機感」を政策にしていきたい。
創造都市という言葉が一人歩きしてしまっている状況で、創造都市とは何か、何をしなければならないかなどを様々な都市で確認するという場に自分も参加できてよかったですと思います。ありがとうございました。
地方自治体に活動が広がっていることが実感できた。
行政の理解の低さ、認知度の低さは否めませんが、ラウンドテーブル討論で別府が例に出ましたが、市民レベルの運動を起こしていきたいと考えています。
多様な取り組み、プロセスがあることを知り、今後の方向性を検討していく上で大変参考になった。CCNJが立ち上がれば、その知見の蓄積も可能となるのではないかと考える。
ラウンドテーブルで参加された方々からの各自治体における取り組みは、首長が非常に積極的であることが特徴と感じました。内部で創造都市を推進する事業に携わっていく中で、首長・住民の力添えが欠かせないと思いますが、そのサポートとしてネットワークは有効に働くように感じます。
各都市によって創造都市に対する温度差・考え・位置づけが違うというのを実感しました。各自治体間のネットワークを構築するのはいいですが、わざわざ会議をつくる意義がよくわかりません。
各自治体においては、創造都市施策・事業の関する予算どりが課題であると思いますが、予算要求の際、事業効果・成果を役所の内外でどのように主張しているのか、具体例を挙げていただけるとありがたいと感じています。
課題として、「文化芸術に対する行政職員の知識不足」「地方自治体は財源不足のため、不要不急の事業である文化施策が予算不足」があると思います。CCNJに期待しています。
「創造都市」という言葉から内部(行政)・外部(市民)にしっかり認知してもらうとともに、具体的に取り組む際の市民との合意形成をどう図っていくか。ネットワーク会議のメンバーの先行的な取組の中での経験等を参考にしたい。
今後とも様々な情報の提供をお願いします。
個別の相談などができるような機会があるといいのですが…。このような場所にわが市の行政の人も来てほしい。市長も！市議も！
参加するごとに創造都市についての理解が深まっており、今後も継続して参加したい。
創造都市ネットワークにぜひとも参加させていただきたい。その意味でも、文化庁・文化芸術創造都市モデル事業を執行させていただければと考えています。今後ともよろしくお願いします。
ネットワークを強化するため、日常から互いに情報交換するために、Facebookなどのプラットフォームを使い、グループを作りませんか？ こういった会議と会議の間の期間に情報の流れを止めることなく、お互いを感化しあえる仕組みを作りませんか？ もしすでにあるようでしたら教えてください。もし、もっとopenにすることがcreativityに必要なfactorならば、会議の内容をustreamなどで公開してみてもどうでしょうか？ もしくは会議のhighlightをyoutubeなどで配信してシェアできるような形を作れませんか？
ランドリー氏の言う「creativeな消費者」が重要だと思いました。日本の江戸時代の文化、「歌舞伎」「浮世絵」等が世界的に評価されるのは、豊かな町人階級が文化を育んできた結果だと言われていますが、現代においても同じなのかもしれません。施設やイベントも必要ですが、持続的な創造都市を目指すには、住民の文化レベルの向上が重要と感じました。ランドリー氏の基調講演は、洒落な写真を交え、楽しかったです。(これぞ創造的！)

<p>今後もぜひブロック会議も行えるとありがたいです。貴重な機会をありがとうございました。</p>
<p>効率性等を重視しすぎてしまうと、その都市のアイデンティティや独創性が薄れて、創造性を失ってしまうということを、今回の講演で改めて感じる事ができた。</p>
<p>学者・行政の集まりが主ですが、財政の危機、低成長の中で、財源の縮小に対して企業の理解を求めることが大切。企業も文化・芸術に理解を示さないと事業の明日はない(私はそう思って参加している)ことを説き、会への参加を呼びかけてほしい。がんばっている創造農村の動きに敬意を表するが、甘い感じがする。法人税等を払っているセクションの話も入れたい。</p>
<p>本市の担当部門に情報提供していきたい。とともに個人的にも大変勉強になりました。</p>
<p>創造都市を実現していく上で、多様な人々、あるいはセクターが関与していくことが重要な要素として位置づけられているように、今回の会議に参加して感じた。一方で、これらの多様なセクターをまとめあげるのは何なのか？あるいは誰なのか？というのが、今後しっかりと考えていかなくてはならないと思う。一個人がイニシアチブをとっていけるわけではなく、またそれぞれのカンパニー、影響力が違う中で、いかに協働して創造都市をつくっていくのか、今後模索していきたい。</p>



平成 23 年度文化庁・文化芸術創造都市推進事業

**創造都市ネットワーク会議 参加者アンケート**

本日はご参加いただき、ありがとうございます。今後の会議の充実化と創造都市を目指す方々とのネットワーク構築のため、率直なご意見・ご感想をお聞かせください。回答は記名式ですが、主催者（事務局）が統計的に処理し、個々の回答者のお名前や回答内容を外部に公表または第三者に提供することはありません。

差支えなければ、お名前とご所属をご記入ください。

お名前：	ご所属
------	-----

問 1. 本会議を何でお知りになりましたか。該当するものすべてに○を付けてください。

- ①ホームページ（文化庁、都市文化創造機構、その他：具体的に）  
②メールニュースでの情報提供（具体的に）  
③文化庁月報      ④チラシ      ⑤知人・友人からの紹介      ⑥勤務先・活動先の紹介  
⑦その他（具体的に）

問 2. 以下の内容についての評価とご意見・ご感想等をお聞かせください。

(1) 基調講演

- ①非常に良かった      ②良かった      ③あまり良くなかった      ④非常に良くなかった  
その理由（      ）

(2) ラウンドテーブル討論

- ①非常に良かった      ②良かった      ③あまり良くなかった      ④非常に良くなかった  
その理由（      ）

問 3. 本会議の運営についての評価と感想等をお聞かせください。

- ①非常に良かった      ②良かった      ③あまり良くなかった      ④非常に良くなかった  
その理由（      ）

問 4. 都市文化創造機構では月 1 回程度、創造都市に関する情報をメールニュースとして発信しています。今後、ニュースをお送りしてもよろしいですか？

- ①希望する→お名前：      メールアドレス：  
②希望しない

問 5. その他、創造都市を目指す上での問題点や課題、創造都市ネットワークに関するご意見・ご感想や要望等について、自由にお書きください。

ご回答ありがとうございました。

NPO 法人都市文化創造機構

# 創造都市政策セミナー



日時 **11月20日(日) 9:30～12:30(開場9:00)**  
場所 **アクトシティ浜松コンgresセンター 41会議室**  
主催 文化庁 NPO法人都市文化創造機構  
協賛 静岡国際オペラコンクール実行委員会  
後援 浜松市 財団法人浜松市文化振興財団  
協力 大阪市立大学都市研究プラザ 日本アートマネジメント学会  
一般社団法人浜松創造都市協議会

申込方法 **入場無料**  
裏面のフォームにて  
できるだけE-mailでお申し込み下さい。  
受付期間：11月14日まで  
定員160人(先着順)

お問い合わせ ☎ 541-0042 大阪市中央区今橋2丁目1-1 新井ビル3F NPO法人都市文化創造機構  
FAX 075-755-6678 E-mail/semnar2011@creative-city.jpn.org

# 創造都市政策セミナー

9:30 開会あいさつ

**近藤 誠一** (文化庁長官)

9:45 問題提起

## アジア創造都市ネットワークの可能性

**佐々木 雅幸** (大阪市立大学教授・都市研究プラザ所長)

10:15 休憩

10:20 パネルディスカッション

## アジアの創造都市ネットワークと日本

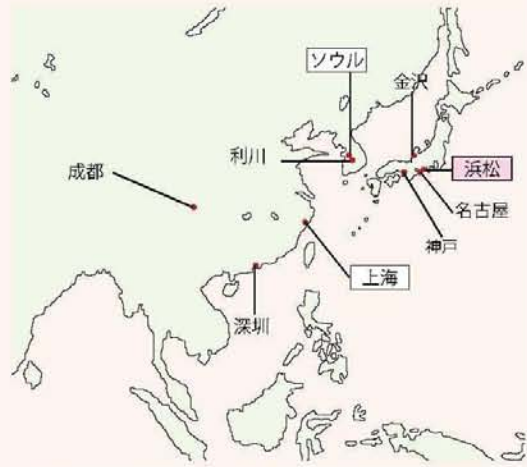
パネリスト ソウル市 **金 海 補** (ソウル文化財団政策研究室長)  
 上海市 **花 建** (上海社会科学教授・文化産業研究センター所長)  
 鶴岡市 **榎本 政規** (鶴岡市長)  
 文化庁 **近藤 誠一** (文化庁長官)

コーディネーター **佐々木 雅幸** (大阪市立大学教授・都市研究プラザ所長)

\*会場との質疑応答あり

12:00 まとめ / 閉会あいさつ

### アジアのユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市



\*  パネル討論参加  会場都市 (加盟申請中)

### エクスカーショ

日時 11月20日(日) 13:30~15:30  
 静岡国際オペラコンクール視察など (定員約30名)

### 連携開催 こちらにもご参加下さい

世界創造都市フォーラム 2011 in HAMAMATSU (主催 浜松市)  
 音楽創造都市への発展 ユネスコ・ネットワークとともに

日時 11月19日(土) 13:30~17:30  
 場所 アクトシティ浜松コンgresセンター 41 会議場

ユネスコ音楽創造都市の事例発表  
**ボローニャ市** (イタリア) **グラスゴー市** (イギリス)

パネルディスカッション1

音楽と創造都市

パネルディスカッション2

市民・企業・行政の連携と創造都市

パネリスト **マウロ・フェリコーリ** (ボローニャ市文化・美術館局長)  
**スヴェン・ブラウン** (グラスゴー・ユネスコ音楽都市ディレクター)  
**花 建** (上海社会科学教授・文化産業研究センター長)  
**片山 泰輔** (静岡文化芸術大学教授・浜松創造都市協議会代表理事)  
**山崎 泰啓** (浜松市副市長)

コーディネーター **根本 敏行** (静岡文化芸術大学教授)

### 懇親会 「世界創造都市フォーラム」& 「創造都市政策セミナー」

日時 11月19日(土) 18:00~19:30  
 場所 アクトシティ浜松コンgresセンター 43 会議室  
 会費 当日、実費(2000円程度)を申し受けます。



JR浜松駅からは徒歩で5~10分です。 <http://www.actcity.jp/>

申込フォーム E-mail / seminar2011@creative-city.jpn.org FAX 075-755-6678 申込締切 11月14日

ふりがな			ご連絡先	E-mail
ご氏名				TEL
ご所属	名称	ご役職		
	分野	<input type="checkbox"/> 行政・行政関連法人 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> まちづくり団体 <input type="checkbox"/> 文化・芸術(関連)団体 <input type="checkbox"/> 文化・芸術施設 <input type="checkbox"/> 教育・研究機関 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> メディア関係 <input type="checkbox"/> その他( )		
▶ 20日セミナー参加者名簿(当日会場配布)にご氏名とご所属先を記載してもかまいませんか? 可・不可				
参加に○をつけて下さい	19日午後	世界創造都市フォーラム	19日夕	懇親会
	20日午前	創造都市政策セミナー	20日午後	エクスカーショ(20日午前参加者のみ)

文化庁・平成23年度文化芸術創造都市推進事業

# Creative City Policy Seminar

# 創造都市政策セミナー

ア  
ジ  
ア  
の  
創  
造  
都  
市  
ネ  
ッ  
ト  
ワ  
ー  
ク  
と  
日  
本

11月20日(日)9:30~12:30  
アクトシティ浜松コンgresセンター41会議室

Sunday, 20 November, 2011 9:30 am —12:30 pm  
Act City HAMAMATSU Congress Center Meeting Room 41



## 開催趣旨

本セミナーは、我が国における文化芸術創造都市ネットワークの構築・強化の一環として、国内外の創造都市の取組事例から知見を得る機会を設け、文化芸術の持つ創造性を活かして地域振興、観光・産業振興等に取り組む地方自治体を支援するものです。

本年度は、近隣諸国のユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市から関係者を招聘し、アジア地域における創造都市ネットワーク形成の可能性についての示唆を得る機会ともしたいと考えています。

## Prospectus

This seminar, for building and strengthening the network of cultural creative cities in Japan, is to provide an opportunity to learn from cases of creative cities here and abroad, and to supports local governments which work positively to promote regional developments, tourism and industrial developments by taking advantage of creativity of culture and arts. For this year, we have invited officials from the UNESCO Creative Cities Network member cities of neighboring countries who will inspire us on the possibility of forming a network of creative cities in Asia on this occasion.

## プログラム 登壇者のプロフィールは6～7ページをご参照ください

9:30 — 開会あいさつ

近藤 誠一 文化庁

9:45 — 冒頭発言

アジア創造都市ネットワークの可能性

佐々木 雅幸 大阪市立大学

10:00 — パネルディスカッション

アジアの創造都市ネットワークと日本

パネリスト

花 建 上海

金 海 補 ソウル

榎本 政規 鶴岡

近藤 誠一 文化庁

コーディネーター

佐々木 雅幸 大阪市立大学

\*参加者との質疑応答あり

12:00 — まとめ / 開会あいさつ

## Program Refer to page 6-7 for Profile

9:30 — Opening Address

KONDO Seiichi Agency for Cultural Affairs

9:45 — Opening Remarks

Possibility of Creative Cities Network in Asia

SASAKI Masayuki Osaka City University

10:00 — Panel Discussion

Creative Cities Network in Asia and Japan

Panelists

HUA Jian Shanghai

KIM Hae-Bo Seoul

ENOMOTO Masaki Tsuruoka

KONDO Seiichi Agency for Cultural Affairs

Coordinator

SASAKI Masayuki Osaka City University

\* Q&A with participants

12:00 — Summing Up & Closing Address

## グローバル創造都市をめざす上海の戦略と政策

### I 背景と戦略

2003年に上海は「世界都市」をめざす戦略を打ち出した。現在「世界都市」にあたる都市はニューヨーク、東京そしてロンドンの3つである。上海は第4の世界都市となるためにベストを尽くす。

2009年に上海はユネスコの創造都市ネットワークに加盟申請し、2010年に認定された。加盟申請のテーマは「クリエイティブ上海、デザイン・フューチャー（Creative Shanghai, Design Future）」である。

未来の世界都市として、上海はその財政的、経済的な優位性、また貿易や物流のアドバンテージを総合的に活かし、デザインやクリエイティブの面での役割を促進し、それを上海の第二次産業・第三次産業の駆動力とする。また上海は“市の指導、制度の誘導、市場操作”という形を促進している。

### II 計画と目標

2005年に上海は「上海クリエイティブ産業発展重点ガイド」を発表し、そのなかで5つの基幹産業（研究設計産業、建築デザイン産業、メディア産業、コンサルティング産業、ファッションデザイン産業）を発展させることを確認した。

2011年には、「上海文化クリエイティブ産業発展計画（2011-2015）」が公表され、上海は2015年までに、文化産業・クリエイティブ産業がGDPのおよそ12%を占め、多くの文化関連企業とその産業集積を有するようになると予測された。上海は影響力をもつ創造都市となるだろう。また上海のそれぞれの行政区は、それぞれ独自の発展計画を発表した。

### III 政策と助成

21世紀のはじめより、上海は創造都市を推進する一連の政策を研究し、また発表してきた。これらの政策がカバーするのは、主要な産業、財政支援、工業団地開発、サービスプラットフォーム、クリエイティブ産業と国際文化貿易に対する支援などである。そしてこれらの政策が文化産業とクリエイティブエコノミーの発展にプラスの効果を与えている。



## The Strategy and Policy for Shanghai to Become a Global Creative City

### I Background and Strategy

In 2003, for the first time, Shanghai announced its strategy to become a "World City". Up to now, there are three "World City", namely New York, Tokyo and London. Shanghai would try its best to become a fourth one.

In 2009, Shanghai formally applied to join the UNESCO Creative City network, and was accepted on February 2010. The theme for application was chosen as "Creative Shanghai, Design Future". As one of the future world city, Shanghai will make use of its comprehensive advantages in finance, economy, trade and shipping to facilitate the role of design and creative as a driving force for the secondary and tertiary industries in Shanghai. Shanghai is promoting the pattern of "government guidance, institute leading and market operation".

### II Planning and Goals

In 2005, Shanghai announced Shanghai Creative City Development Guidance. It confirmed that Shanghai will develop five key industries: research design industry, architectural design industry, cultural media industry, consulting industry and fashion design industry.

In 2011, Shanghai published Shanghai Cultural and Creative Industry Development Planning (2011-2015). It predicts by 2015, Shanghai cultural and creative industry will take up roughly 12% of its GDP, and Shanghai will have a large number of cultural corporations and industry clusters. It will become an influential creative city. Each district in Shanghai also announced its own development planning.

### III Policy and Assistance

Since the beginning of the 21st century, Shanghai has studied and published a series of policy promoting creative city. These policies cover major industries, financial support, industry parks, service platforms and encouraging creativity and international cultural trading. They positively impacted the development of cultural industry and creative economy.

## 創造都市戦略に対するアジア発の新しい選択肢を考慮すべきとき ；新しい文化政策パラダイムとしての人間的な都市 (humane-city) 戦略

### ソウルにおける文化戦略の変化の前兆

先日の市長選挙の結果が示したのは“あなたの生活を変える、はじめての市長”という朴氏のスローガンが、変化を求める人々に対してより訴えかけることに成功したということだった。“コミュニティの一体感と、希望のある都市”という彼の公約から、人々は容易に“人間の顔をもつ都市”をイメージすることができる。

### “人間的な都市 (humane-city, 仁義都市)”, 新しく生まれつつある文化の価値をいかす新戦略

私たちがこのような価値の変化と、無形の価値の交換を可能にする新しいテクノロジーを目にするにつれ、文化の新しく生まれつつある（無形の）価値を活用する新しい方法を考えるべき時が来ている。創造都市戦略にかわる選択肢として、私たちはそれを“人間的な都市 (humane-city, 仁義都市) 戦略”と呼びたい。

### アジアの知恵と文化政策の新しいイノベーション

“創”という漢字には、ナイフで先端を切って開始するという意味がある。一方、“仁義, humanity and justice”には普遍的な愛、調和、正義という意味がある。文化のもつ無形の価値を最大限に活用するために、競争にかわって信頼を回復ということが文化政策のあたらしい目標となるべきである。人々にあなたの言葉を信じさせるために、我々が達成するべきことこそイノベーションであろう。

文化的資源の持つ価値 3つの1*	文化的資源がもたらすことができる価値の典型例	
	有形の価値 ・現在言われている ・創造都市によっておもに考慮されている	無形の価値 ・新しく生まれつつある ・人間的な都市 (humane-city) によって考慮される
本質的な価値 Intrinsic Value	イメージ (ex: 芸術作品の見世物)	物語 (ex: 感動的な物語)
商業的な価値 Industrial Value	現金 (ex: コンテンツビジネスの収入)	信用 (ex: 構成員の忠実さ、 ビジネス継続のための社会的信用)
機能的な価値 Instrumental Value	発展の推進力 (ex: 創造都市の競争力)	実質性 (ex: 共通の文化・伝統の共有 によるコミュニティの再生)

## Time to consider the Asian alternative to the Creativity-city strategy ； The Humane-city strategy as a new cultural policy paradigm

### Sign of change in Seoul's cultural strategy

The recent election result of mayor candidly reveals that Mr. PARK's campaign slogan, "the first Mayor who would change your life," was more successful in persuading people who want change. People easily can imagine "a city with Human face" out of his pledges to make "the community of togetherness, and the city of hope".

### "Humane-city 仁義都市", new strategy utilizing emerging values of culture

As we are witnessing such a change of values and new technology enabling the trade of intangible values, it's time to consider new way to utilize the emerging (intangible) values of culture. As an alternative to the Creative-city 創造都市 strategy, we would call it "Humane-city 仁義都市" strategy.

### Asian wisdom and new way of innovation in cultural policy

Chinese character “創 Creating” has the original meaning of starting something scratching with knife. On the other hand, “仁義, humanity and justice” means the universal love, harmony and rightness. To make the most use of the intangible values of culture, restoring the confidence instead of the competitiveness should become the new objective of the cultural policy. To make people believe what you are saying, it will be the innovation what we should achieve.

3 I values of cultural resource	Typical examples of the value that the cultural resource can bring	
	Tangible value presently accounted mainly considered by Creative city	Intangible value emerging to be considered by Humane city
Intrinsic Value	Image (ex: spectacle of art works)	Story (ex: touching story)
Industrial Value	Cash (ex: revenue earned by contents business)	Credit (ex: loyalty of membership or social trust to carry out business on)
Instrumental Value	Development Momentum (ex: the competitiveness of the creative city)	Substantiality (ex: community restoration by sharing common culture and tradition)

## 地域の多様な文化を土台に、食文化創造都市へ

鶴岡市は、豊かな食の宝庫です。それは、この地域の山あり、平野あり、川あり、海ありという変化に富む特異な地形と、四季の変化がとても豊かに感じられる自然がもたらす恵みです。

この特性を活かし、先人たちは稲作をはじめとする農林水産業や酒造、絹織物などの伝統産業を興し、それらに勤（いそ）しみ、この地域特有の食文化を築き上げてきました。

山菜やきのこなどの山の幸、米、枝豆、たけのこなどの里の幸、さくらますや寒だらなどの海の幸をはじめとする四季折々の食材の豊富さとその多様性には定評があります。一年中、旬の素材の味をふんだんに活かした料理の数々を楽しむことができます。特に、鶴岡は国内有数の稲作地帯であり、日本で一番を自負する美味しい米「つや姫」を生産しています。そして、美味しい米を活かした酒づくりも盛んです。

人々は暮らしの中で学問や芸術に勤しみ、学術や文化の価値を大切にす風土があります。こうした伝統から、鶴岡は世界最先端のバイオ研究所や大学の集積により、学術産業都市を形成しています。

鶴岡市は、このような個性あふれる地域の文化の多様性を保全しながら、食文化を活かした創造的産業を創出することで世界に貢献するため、ユネスコの創造都市ネットワークへの食文化部門での加盟を目指します。

このため、今年度から、文化庁の文化芸術創造都市モデル事業の採択をいただき、8つの食文化プロジェクトを推進しています。また、国際的にも、パリにおいて修験文化と伝統料理のデモンストレーション等に取り組んでいます。

このプレゼンテーションでは、こうした鶴岡の食文化とプロジェクトの概要をご紹介します。



## Building on Cultural Resource in the Region, to a Creative City of Gastronomy

Tsuruoka is a mine of rich and varied foods. It is a gift coming from the changeful specific landforms which have mountains, plain fields, rivers and seas; and nature which can be richly felt the change of seasons.

Forefathers have taken advantage of those specialties to form traditional industries such as agriculture being represented by rice cultivation, forestry, fishing, sake brewing and silk fabric (textile). They engaged in those activities everyday and created regionally specific food culture of the area.

Tsuruoka is earning a good reputation for the abundance and variety of its seasonal ingredients including mountain treasures such as wild vegetable and mushrooms, rural treasures such as rice, green soybean and bamboo shoots, and sea treasures such as *Oncorhynchus masou* and *Kandara*. Throughout the year, you can enjoy various flavors which make the most of in-season ingredients.

Tsuruoka is one of the greatest rice-producing regions in the country, we take pride especially in the delicious rice of "Tsuyahime" which is the best in Japan. Moreover, our sake brewing which took advantage of the delicious rice is popular as well.

There is a custom that people engage in academics and fine arts in daily life, and place a high priority on the value of academic and culture. Based on those traditions, Tsuruoka is forming an academic industrial urban by and with a cluster of universities, and the most advanced Bio research institute in the world.

Tsuruoka aims at becoming a member of Gastronomy in Creative Cities Network of UNESCO in order to contribute to the world by maintaining the cultural diversity of the community which is overflowing with individuality.

Consequently, we obtained the adoption of Agency for Cultural Affairs with the culture art creative cities model projects, promoting the eight projects of Gastronomy. Furthermore, we are actively involved in the demonstration of Shugen culture and traditional cuisine at Paris internationally.

In this presentation, we introduce the food culture of Tsuruoka and give a brief summary of projects.



## プロフィール

### 花 建 上海社会科学院(SASS)文化産業研究センター長



研究対象は、文化産業、クリエイティブエコノミー、文化政策、スポーツ経済など。世界銀行、中国国家社会科学財団、中華人民共和国政府、中国の地方自治体、フォーチュン500企業などの委託により、文化産業のクリエイティブクラスターと集積的な発展やグローバル都市を目指す上海の方針と政策について、20以上の調査研究プロジェクトに携わる。著書に『文化+創意=財富』、『地域文化産業の発展』、『文化の成都—2020年、どのような成都を導くのか—』などがある。これらは、第9回上海哲学社会科学成果賞、上海社会科学院創設50周年記念学術貢献賞、中国国家文化部文化産業優秀課題一等賞を受けた。2008年と2009年に上海と成都のユネスコ創造都市ネットワーク加盟の申請書作成を主導し、両市は2010年2月に加盟した。

### 金 海 補 ソウル芸術文化財団政策研究室長



1999年、劇団Moochon(監督:Kim, A-ra)のプランナー。1999-2000年、Samul Nori Hannullim(監督:Kim, Duk-Soo)のスタッフとして勤務。2001-2004年、韓国科学財団(KSF)の科学振興プログラム係、特に、科学芸術プロジェクトの開発に従事。2004年から、ソウル芸術文化財団にて勤務。フェスティバル・プロダクション・チーム(2008)、ソウル劇場センター(2008-2009)、ソウル芸術空間TFT(2008-2009)のチームマネージャーを務める。現在、ソウル文化的企業支援センターの運営及びSFACの開発プロジェクトの企画と支援業務を担当している。

### 榎本 政規 鶴岡市長



1991年5月、鶴岡市議会議員に当選。2005年10月、合併後の鶴岡市議会初代議長に就任。2009年10月、鶴岡市長に就任。庄内広域行政組合理事長、東北公益科大学副理事長、致道博物館顧問も務める。食などの地域資源を活かして、文化、観光、学術、安心、森林をキーワードとした鶴岡ルネサンス宣言を掲げ、創造都市の実現を目指して積極的な施策を展開している。

### 近藤 誠一 文化庁長官



神奈川県出身。東京大学教養学部教養学科卒、同大学院法学政治学研究所中退。1972年外務省入省。在米日本大使館参事官、同公使などを経て、外務省経済局審議官、OECD事務次長、外務省広報文化交流部長、国際貿易・経済担当大使、UNESCO日本政府代表部特命全権大使、駐デンマーク特命全権大使、2010年7月より現職。

### 佐々木 雅幸 大阪市立大学教授、都市研究プラザ所長



京都大学大学院経済学研究科博士課程修了、京都大学博士(経済学)、金沢大学経済学部助教授・教授、大阪市立大学大学院創造都市研究科教授・研究科長を経て2007年から現職。2008年度から2010年度まで文化経済学会<日本>会長、2010年から国際学術雑誌City, Culture & Society(Elsevierから刊行)の編集長も務める。主著に、『創造都市への挑戦』(岩波書店、2001)、『創造都市の経済学』(勁草書房、1997)、『創造都市への展望—都市の文化政策とまちづくり』[編著](学芸出版社、2007)、『価値を創る都市へ—文化戦略と創造都市』[編著](N T T出版、2008)、『創造都市と社会包摂』[編著](水曜社、2009)他多数。

## Profile

**HUA Jian** Director of Culture Industry Research Center in Shanghai Academy of Social Sciences (SASS)

His research field covers culture industry, creative economy, cultural policies and sports economy. Professor Hua has taken on over 20 major research projects commissioned by the World Bank, Chinese National Social Science Fund, Chinese central Government, Chinese provincial and municipal government and Fortune 500 corporations etc. These projects included Research on Creative Cluster and Conglomeration Development of Cultural Industry, Research on The Strategy and Policy for Shanghai to Become Global Cultural Metropolis etc. He has published more than 10 academic books including *Culture + Creativity = Fortune*, *Regional Cultural Industry Development*, *Cultural Chengdu - To bring what kind of Chengdu into 2020*. These publications and research papers are awarded Ninth Shanghai Philosophy and Social Science Contribution Award, Shanghai Academy of Social Sciences 50th Anniversary Academic Contribution Award, National Ministry of Cultural P.R.C.-Cultural Industry Excellent Research Award First Class. In 2008 and 2009, Professor Hua leads the application report for the city of Shanghai and Chengdu to join the UNESCO's Creative City Network. Both cities were successfully accepted into the Network on February 2010.

**KIM Hae-Bo** Team manager, Office of Research & Development of Seoul Foundation for Arts and Culture (SFAC)

Worked as planner of the theater company Moochon (directed by Kim. A-ra) (1999). Worked as staff of SamulNori Hannullim (directed by Kim. Duk-Soo) (1999-2000). Worked in Korea Science Foundation (KSF) dealing with science promotion programs. Especially, developed SciArt project. (2001-2004). Have been working in Seoul Foundation for Arts and Culture (SFAC) since 2004. Worked in the position of team manager for Art support team (2009-2010), Seoul art space TFT (2008-2009), Seoul theater center(2008-2009), Festival production team(2008). Currently in charge of managing Seoul Cultural Enterprise Support Center and planning and supporting the SFAC's R&D projects.

**ENOMOTO Masaki** Mayor of Tsuruoka

He was elected as a city council member in Tsuruoka in May, 1991. In October of 2005, he became the first Chairman of the combined city council of Tsuruoka. And he assumed the office of mayor of Tsuruoka in October, 2009. He also serves as the chairperson of Shonai integrated administration of a large region association, the vice director of Tohoku University of Community Service and Science, and an adviser of Chido Museum. He aims at the realization of a creative city, advocates Renaissance Declaration of Tsuruoka incorporated culture, tourism, academic, security, and forest as keywords, implements the measures proactively, by utilizing local resources such as ingredients and so on.

**KONDO Seiichi** Commissioner for Cultural Affairs, Japan

He is born in Kanagawa Prefecture. B.A. in liberal arts programs of College of Liberal Arts and Sciences, University of Tokyo. Dropped out of Graduate School of Law and Politics, University of Tokyo. He entered the Ministry of Foreign Affairs of Japan in 1972. Served as a counselor and the Minister of Japanese Embassy in the United States, Director-General of Economic Affairs Bureau and Chief of Public Diplomacy Department in Ministry of Foreign Affairs of Japan. Deputy Secretary General of OECD. Ambassador in charge of international trading and economics, Ambassador extraordinary and plenipotentiary of Permanent Mission of Japan to UNESCO, Ambassador extraordinary and plenipotentiary to Denmark. He assumed his current position since 2010.

**SASAKI Masayuki** Director of Urban Research Plaza, Professor of Osaka City University

Ph.D. in Economics, Graduate School of Economics, Kyoto University. Served as an Associate Professor and a Professor of Faculty of Economics in Kanazawa University and Dean of Graduate School for Creative Cities in Osaka City University. He assumed his current position in 2007. He also served as President of Japan Association for Cultural Economics from 2008 to 2010, and took up the Editor in Chief of City, Culture & Society (published by Elsevier) since 2010.

### Major articles

*Economics of Creative City*, Keiso Shobo, 1997. *Challenge to the Creative City*, Iwanami Shoten, 2001. *Towards the Creative City: Urban Culture, Policy and Planning* (editing and writing), Gakugei Shuppansha, 2007. *Towards the value-creating city: Cultural strategy and Creative City* (editing and writing), NTT Publishing, 2008. *Creative City and Social Inclusion* (editing and writing), Suiyosha, 2009. And many others.

アジアのユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市



\* □ パネル討論参加    ■ 会場都市(加盟申請中)

主催  
文化庁  
NPO法人都市文化創造機構

協賛  
静岡国際オペラコンクール実行委員会

後援  
浜松市  
財団法人浜松市文化振興財団

協力  
大阪市立大学都市研究プラザ  
日本アートマネジメント学会  
一般社団法人浜松創造都市協議会

Organizer  
Agency for Cultural Affairs, Japan  
Creative City Consortium (NPO)

Sponsor  
Executive Committee of the Shizuoka International Opera Competition

Supporters  
Hamamatsu City  
Hamamatsu Cultural Foundation

Cooperation  
Urban Research Plaza of Osaka City University  
Japan Association for Arts Management  
Creative City Hamamatsu Promotion Committee (Association)

文化庁・平成23年度文化芸術創造都市推進事業



# 創造都市ネットワーク会議

参加費無料

我が国における創造都市の取組は、全国的な広がりを見せ始めています。その潮流は、政令市・中核市といった大都市から、人口10万人未満の小都市（農村）にまで及んでいます。また、ここ数年来、創造都市の取組が波及すると同時に、情報交流や相互支援のためのネットワーク構築を求める機運が高まってきました。これらの状況を踏まえ、文化芸術創造都市推進事業では今年度、全国ブロック別会議（全7ブロック）、創造農村ワークショップ、および創造都市政策セミナーを開催し、創造都市政策に関する知見を共有し理解を深めるとともに、目に見えるネットワークの構築に向けた検討を進めてきたところです。

今回の創造都市ネットワーク会議では、そうした全国各地での討論を集約するとともにさらなる議論の深化を図り、「文化芸術創造都市ネットワーク日本（仮称）」設立の展望を描きます。プログラムにおいては、創造都市論の世界的第一人者であるチャールズ・ランドリー氏（英国）を招聘し、新たな知見や我が国の取組進展に向けた示唆を得るとともに、自治体関係者をはじめ全国の取組主体が積極的に交流できる場とします。



日 時

平成24年2月4日(土) 13:30~17:30

(受付開始13:00~)

会 場

文部科学省講堂（東館2階、左図参照）

東京メトロ銀座線虎ノ門駅11番出口直結徒歩2分

// 6番出口徒歩2分

東京メトロ千代田線有明駅A13番出口徒歩5分

メインゲスト **チャールズ・ランドリー氏**  
(シンクタンク「コメディア」代表)

参加費 **無料** ※懇親会は別途要

定 員 **300名** (先着順)

※裏面の申込みフォームにご記入の上、1月30日  
までにお申し込みください。当日の入館手続の  
関係上、必ず事前申込みが必要です。

主 催 文化庁、NPO法人都市文化創造機構  
協 力 大阪市立大学都市研究プラザ

創造都市ネットワーク会議



**プログラム** ※敬称略

- 13:30～13:40 **開会挨拶**  
佐々木雅幸 (NPO法人都市文化創造機構理事長)
  - 13:40～13:50 **主催者挨拶**  
近藤誠一 (文化庁長官)
  - 13:50～14:50 **基調講演** 【日英通訳あり】  
チャールズ・ランドリー  
「世界の創造都市と日本への期待」
  - 14:50～15:10 **特別報告**  
野田邦弘 (鳥取大学教授)  
「創造都市ネットワーク・カナダの事例調査から」
  - 15:10～15:30 **休憩**
  - 15:30～17:00 **ラウンドテーブル討論**  
「我が国における創造都市ネットワークの役割」  
モデレーター：佐々木雅幸
  - 17:00～17:30 **まとめ**  
コメンテーター：チャールズ・ランドリー
- ※終了後、17:45から懇親会（立食パーティー）を開催します。



**チャールズ・ランドリー氏 プロフィール**

シンクタンク「コメディア」代表。1948年ロンドン生まれ。イギリス、ドイツ、イタリアで学び、都市の未来と文化資源の最大化に焦点を合わせながら、戦略的な促進役、アドバイザー、コンサルタントとして活動することをめざし1978年に「コメディア」を設立。以来、世界各地約50カ国で活躍し、世界銀行（本部：ワシントン）でも都市の文化戦略におけるアドバイスを行うなど、創造都市論の世界的第一人者である。主著は*The Creative City: A Toolkit for Urban Innovators* (2000、邦訳『創造的都市—都市再生のための道具箱』後藤和子監訳、2003)、*The Art of City Making* (2006)、*The Intercultural City: Planning for Diversity Advantage* (2007、共著) など。

\*参考 コメディアのホームページ <http://www.comedia.org.uk/>

**懇親会**

時 間 17:45～19:00  
会 場 文部科学省  
講堂を予定  
定 員 先着70名  
※事前申込み要  
参加費 2,000円  
※当日、受付でお支払い  
ください

**申込みフォーム**

下記項目にご記入の上、なるべくE-mailで事務局(NPO法人都市文化創造機構)へお申し込みください。申込締切1月30日  
E-mail: network2011@creative-city.jp FAX: 06-6309-0760

ふりがな			E-mail
ご氏名	ご連絡先		
			TEL
ご所属	名 称		ご役職
	分 野 (✓入れて ください)	<input type="checkbox"/> 行政・行政関連法人 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> まちづくり団体 <input type="checkbox"/> 文化・芸術(関連)団体 <input type="checkbox"/> 文化・芸術施設 <input type="checkbox"/> 教育・研究機関 <input type="checkbox"/> 学生 <input type="checkbox"/> メディア関係 <input type="checkbox"/> その他 ( )	
※当日会場で配布する参加者名簿にご氏名とご所属先を記載してもかまいませんか? 可 ・ 不可			
○をつけてください	ネットワーク会議: 参加 ・ 不参加		懇親会: 参加 ・ 不参加



文化庁・平成23年度文化芸術創造都市推進事業

## 創造都市ネットワーク会議

日時：平成24年2月4日（土）13:30～17:30

会場：文部科学省 講堂

主 催 文化庁、NPO法人都市文化創造機構  
協 力 大阪市立大学都市研究プラザ



## 創造都市ネットワーク会議

### プログラム

※敬称略

- 13:30～13:40 開会挨拶  
佐々木雅幸 (NPO法人都市文化創造機構理事長)
- 13:40～13:50 主催者挨拶  
近藤誠一 (文化庁長官)
- 13:50～14:50 基調講演【日英通訳あり】  
チャールズ・ランドリー (「コメディア」代表)  
「世界の創造都市と日本への期待」
- 14:50～15:10 特別報告  
野田邦弘 (鳥取大学教授)  
「創造都市ネットワーク・カナダの事例調査から」  
(15:10～15:30 休憩)
- 15:30～17:00 ラウンドテーブル討論  
「我が国における創造都市ネットワークの役割」  
モデレーター：佐々木雅幸
- 17:00～17:30 まとめ  
コメンテーター：チャールズ・ランドリー

★ロビーに情報コーナーを設けております。  
全国各地の多彩な取り組みの紹介パンフレット  
等がありますので、休憩時間にご覧いただき、  
1部ずつお持ち帰りください。

#### チャールズ・ランドリー氏 プロフィール



シンクタンク「コメディア」代表。1948年ロンドン生まれ。イギリス、ドイツ、イタリアで学び、都市の未来と文化資源の最大化に焦点を合わせながら、戦略的な促進役、アドバイザー、コンサルタントとして活動することをめざし1978年に「コメディア」を設立。以来、世界各地約50カ国で活躍し、世界銀行（本部：ワシントン）でも都市の文化戦略におけるアドバイスを行うなど、創造都市論の世界的第一人者である。主著は*The Creative City: A Toolkit for Urban Innovators* (2000、邦訳『創造的都市—都市再生のための道具箱』後藤和子監訳、2003)、*The Art of City Making* (2006)、*The Intercultural City: Planning for Diversity Advantage* (2007、共著) など。

\*参考 コメディアのホームページ <http://www.comedia.org.uk/>

## 創造都市ネットワーク会議（ラウンドテーブル）の開催実績

### 平成19年度：ラウンドテーブル「創造都市の連携と交流に向けて」

・平成20年2月15日（金）大阪市立大学文化交流センターにて。

平成19年度に実施し採択された「世界創造都市フォーラム2007 in Osakaのアジェンダ」を踏まえて、創造都市をめざす自治体担当者、大学関係者、市民、NPO、企業等が参加し、各々の取り組みと今後の交流について意見交換。NPO法人都市文化創造機構が任意団体時に主催。

\*参加自治体数12

### 平成20年度：第2回ラウンドテーブル「創造都市の連携と発展に向けて」

・平成20年10月18日（土）石川四高記念文化交流館（金沢市）にて。

創造都市をめざす国内外の自治体担当者と研究者・実務者等が参加し、「世界創造都市フォーラム2008 in Kanazawa」の海外ゲスト（ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市の副市長や職員）とともに、今後の連携に向けての取り組みについて討議。NPO法人都市文化創造機構が任意団体時に主催。

\*参加自治体数14

### 平成21年度：「文化芸術創造都市ネットワーク会議」

・平成21年9月5日（土）横浜クリエイティブシティセンターにて。

平成21年度文化庁・文化芸術創造都市推進事業として横浜市で開催。全国から文化芸術の持つ創造性を活かして地域づくりをすすめる実践者・実務者等が参加し、「横浜クリエイティブシティ国際会議2009」の海外ゲストとともに、互いの連携とネットワーク構築について討議。

\*参加自治体数16

### 平成22年度：「文化芸術創造都市ネットワーク会議」

・平成23年1月10日（月/祝）Art Theater dB KOBEにて。

平成22年度文化庁・文化芸術創造都市推進事業として神戸市で開催。文化芸術創造都市モデル事業の取組報告の後、今後の創造的ネットワークのあり方をめぐって討議。プラットフォーム機能をさらに充実させて相互に経験交流と情報共有を一層推進するとともに、全国的に創造都市づくりを推進するための政策研究や支援制度の提案などについても検討していく場とするため、「（仮称）創造都市ネットワーク<日本>」設立を呼びかけた。

\*参加自治体数21

ネットワーク会議に加え、ブロック会議や政策セミナー等への

参加自治体数は

平成19年度から約5年間で計72（のべ189）





MEMO

本報告書は、文化庁の委託事業として、《NPO法人都市文化創造機構》が実施した平成23年度文化芸術創造都市推進事業の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文化庁の承認手続きが必要です。